

第10回APRスカウトユースフォーラム派遣
及び
第27回APRスカウト会議派遣
報告書

作成者：第10回APRスカウトユースフォーラム日本派遣団

小林千乃 小池さくら 北村梨沙 大竹晴登

はじめに

この度の第10回APR（アジア環太平洋地域）スカウトユースフォーラム、及び第27回APRスカウト会議は2019年に発生した新型コロナウイルスの影響により、APR史上初のオンライン開催となった。計25の国と地域より186名の代表、オブザーバーが参加し、日本連盟からは代表、オブザーバー各2名の参加となった。

今回より導入された本フォーラム前の事前セッションは約1ヶ月に及び、その期間中に他国代表スカウトとフォーラムのテーマである「青年参画」や「世代間対話」等のトピックスについて議論を交わした。また当期間中に日本派遣団としても海外代表団とのミーティングを行い、意見交流を行うとともに、日本のスカウティングについて派遣団内でも議論を進めた。本フォーラムではAPRスカウト会議に提出される提言文の承認、RYR（地域代表）の選出にAPR地域のユース代表として、参画した。派遣後は派遣団内でのミーティング、第14回世界フォーラム派遣団、RCJとの話し合いを経て、本報告書、並びに日本連盟、RCJに対する提言文を作成した。

本報告書はこれらの派遣前より派遣終了後までの日本派遣団の活動内容を記録したものである。本報告書を通じて国内のスカウト、指導者の方々にAPRでの活動をさらに知ってもらうとともに、国内のスカウティングの更なる発展に貢献できれば幸いである。

最後に、派遣員に対して変わらぬサポートを施してくださった各県、団、隊の指導者、派遣前よりオンラインミーティングの設定や資料の提供を行なってくださった日本連盟事務局の方々、暖かく送り出してくださった日本連盟国際委員会の皆様、国内の情報を随時提供してくださったRCJ、全ての方にお礼を申し上げるとともに、緒言を締めさせていただきます。

2022年3月27日
派遣員一同

目次

はじめに

目次

1. 派遣基本情報	3
1.1 派遣概要	3
1.2 派遣員紹介	4
1.3 派遣全体スケジュール	5
2. 事前準備	6
2.1 派遣団目的・目標選定	6
2.2 情報収集及び内容理解	7
2.3 APRスカウトユースフォーラム事前セッション	9
2.4 他国代表団との意見交換	14
2.5 広報活動	18
3. 第10回APRスカウトユースフォーラム	22
3.1 概要	22
3.2 スケジュール	23
3.3 オープニングセレモニー・キーノートセッション	23
3.4 RYR選挙	24
3.5 提言文	27
3.6 インターナショナルナイト	46
4. 第27回APRスカウト会議	47
4.1 概要	47
4.2 日本派遣団	47
4.3 スケジュール	49
4.4 決議事項	49
5. 派遣終了後の活動	50
5.1 報告書作成	50
5.2 提言文作成	50
5.3 RCJとの連携	50
6. 評価・反省	52
6.1 目的・目標について	52
6.2 派遣全体について	56
6.3 オンライン開催について	57
6.4 派遣員所感	58
7. 日本派遣団としての提言	62
資料	62

1. 派遣基本情報

1.1 派遣概要

名称	第10回APRスカウトユースフォーラム、及び第27回APRスカウト会議
期間	ユースフォーラム：2022年2月9日(水)~2月13日(日) 11日を除く4日間 スカウト会議：2022年2月15日(火)~2月21日(月) 17日・20日を除く5日間
場所	共にオンライン開催

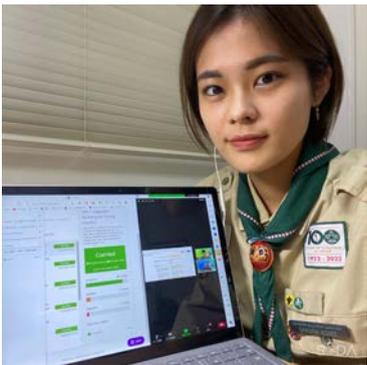
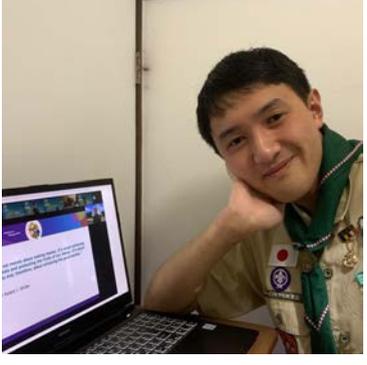
オンライン開催までの流れ

変更前	変更後
2021年9月~10月予定（開催地：台湾）	2022年2月（オンライン）

第10回APRスカウトユースフォーラム、第27回APRスカウト会議は本来、2021年9~10月、台湾での開催が予定されていた。しかし、世界レベルの新型コロナウイルス蔓延を受け、第42回世界スカウト会議、第14回世界スカウトユースフォーラムが2020年夏より1年延期での開催が決定。これを受け、2021年4月、APRスカウト委員会にて第10回APRスカウトユースフォーラム、第27回APRスカウト会議の日程再調整が行われた。本来の予定に沿って開催となれば、世界会議より2ヶ月余りでの開催となり、各国NSOの代表選出や準備時間に支障をきたすと判断され、世界会議の半年後である2022年2月の開催が決定。のちにユースフォーラム、世界会議ともにオンラインでの開催が決定された。



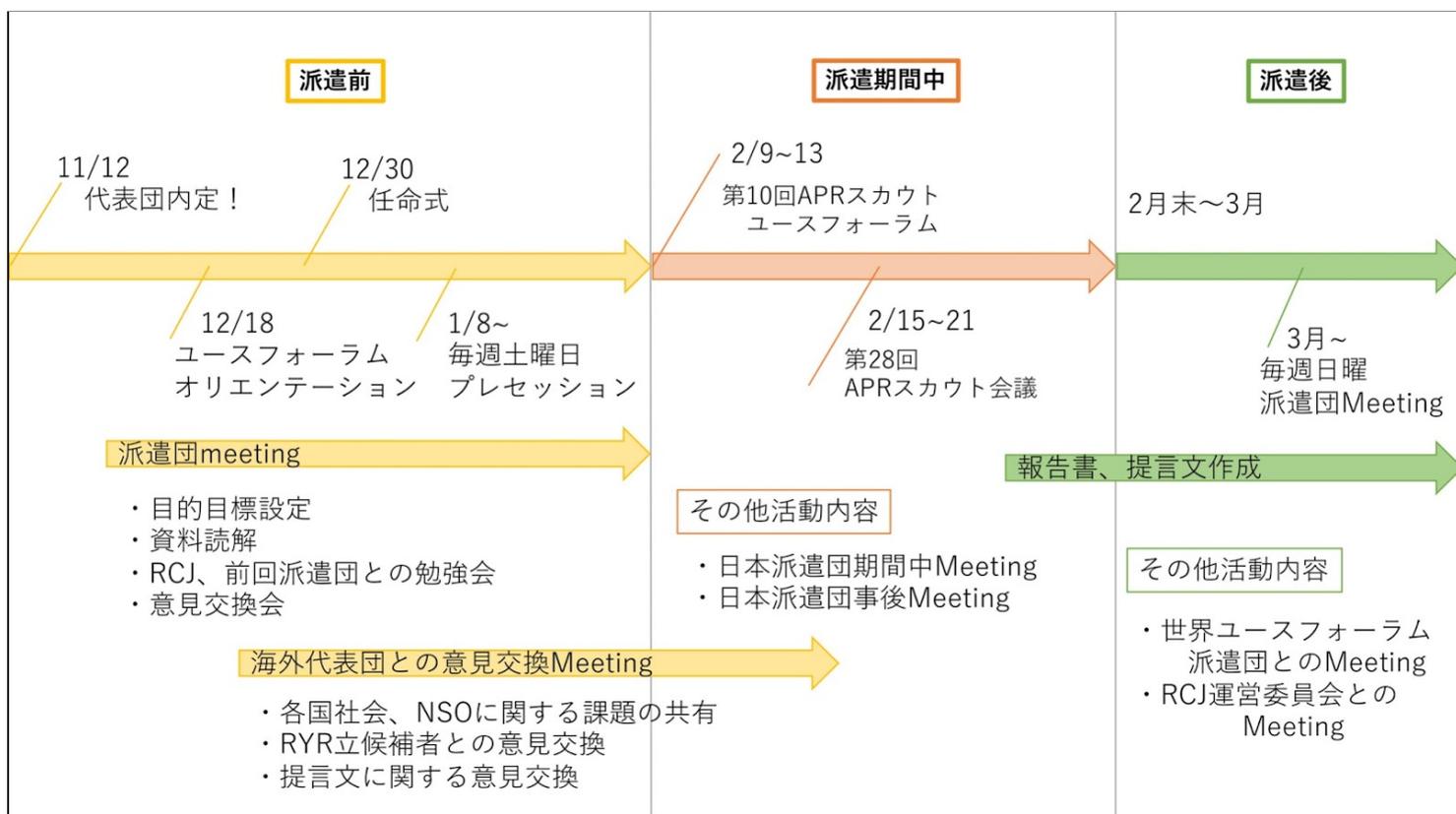
1.2 派遣員紹介

	<p>小林千乃 (代表)</p> <p>所属：兵庫連盟神戸第43団 ローバー隊</p> <p>好きなスカウトワード：幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸せを分け与えることにある</p> <p>好きなAPR地域の食べ物：小籠包</p>
	<p>小池さくら (代表)</p> <p>所属：愛知連盟日進第2団 ローバー隊</p> <p>好きなスカウトワード：スカウトはみな兄弟である</p> <p>好きなAPR地域の食べ物：フォー</p>
	<p>北村梨沙 (オブザーバー)</p> <p>所属：東京連盟三鷹第1団 ローバー隊</p> <p>好きなロープ結び：えび結び</p> <p>好きなAPR地域の食べ物：ガパオライス</p>
	<p>大竹晴登 (オブザーバー)</p> <p>所属：東京連盟練馬第8団 ボーイスカウト隊副長補</p> <p>好きなスカウトソング：もずが枯れ木で</p> <p>好きなAPR地域の食べ物：ベジマイト</p>

1.3 派遣全体スケジュール

第10回APRスカウトユースフォーラム派遣団の派遣前後を含めたスケジュールは主に以下の通りである。本報告書では派遣前、派遣期間中、派遣後の順に沿って派遣団の活動報告を進めてゆく。

(図1) 第10回APRスカウトユースフォーラム派遣団全体スケジュール



2. 事前準備

2.1 派遣団目的・目標選定

テーマ：“Creating a Better **Japanese Scouting By Youth**”

目的
<p>日本のスカウティングの現状を把握し、他国派遣団と課題の共有を行った上で、APR規模の意思決定に日本派遣団として参画する。また、その過程や各国スカウトの課題を国内のユースに対して積極的に発信を行う。これらを通して、本派遣団は国内ユース間においてスカウティングに関する活発な議論が生成され、ユースによる自発的な国内スカウティングの振興と更なる発展が促されることを目指す。</p>

目標
1. 事前に日本連盟、RCJと連携して資料の読み込みを行い、日本のスカウティングの現状を把握する。
2. フォーラムにおける意思決定に日本派遣団の意向を反映し、参画する。
3. フォーラム後、国内のスカウティングを評価した上で日本連盟に対する提言文を提出する。
4. フォーラム後、国内RSに向けた報告会を実施する。
5. SNSを通じてAPR派遣団の動きや海外のスカウティングの実情を発信し、世界に広がるスカウティングを日本国内のスカウト・指導者に実感してもらう。

【背景】

私たち日本派遣団は、ユースの力でもっとスカウティングを盛り上げていきたいという意思を表現するためにテーマを定めた。そのため、国内のユース代表として私たち自身が意思決定に参画すること、経験をシェアし国内のユースにその意識を広げていくことが必要だと考えた。まず日本の代表としてできる限り日本のスカウトの意思を反映させるために、RCJや日本連盟との連携を重視した。それらの過程で得られたことを、全国のローバー・ユース年代とSNSや報告会を通じて共有・問題提起し、日本のスカウティングを活性化させるきっかけにしたいと考えた。

2.2 情報収集及び内容理解

2.2.1 APR、世界ユースフォーラムの資料精読

アジア・太平洋地域のスカウトと実りある議論ができるよう、派遣団一同はフォーラムが始まる前から積極的に派遣団会議を開き、資料の読み込みを行った。扱った資料としては、第9回（前回）APRスカウトユースフォーラム・第14回世界スカウトユースフォーラムの報告書等を読み、当時の良かった点や改善すべき点を分析し、今回のフォーラムでそれらをどのように活かしていくかを話し合った。特に前回のAPRのフォーラムでは、「提言文に関して話し合う時間が少なく、事前に準備が必要であった」という課題が見受けられたため、我々派遣団は各国の提言文について事前に議論する場を設けることができた。

また、随時追加されるスカウトユースフォーラムの資料は各自で読み込むこととした。派遣団内で収集した本フォーラム関連資料（世界スカウトユースフォーラム、前回のAPRスカウトユースフォーラムの補足等）はそれぞれのメンバーが読んだ内容をプレゼン形式で発表する予定であったが、全員の都合がつかずに資料内容の全体共有が間に合わなかった点は反省すべき点である。

今回の会議では、前回の世界スカウトユースフォーラム及びAPRスカウトユースフォーラムの参加者が派遣団ミーティングで有益な情報及び資料を随時提供して下さったため、派遣団全体でフォーラムの概観を想像することができた。前回派遣の反省点を踏まえた解説もあり、派遣団はフォーラムの内容を深く理解できた。さらに、日本連盟国際委員会の方から各国NSOの状況・取り組みについても教わったため、海外スカウトと対話をする前の予習として大変参考になった。

2.2.2 日本のスカウティング理解、及びディスカッション

日本のスカウティング・ローバースカウトの現状や歴史を理解する上で、日本連盟国際委員会、RCJ運営委員よりレクチャーを受けた。また、各個人で質問があれば日本連盟国際委員の方や、事務局の方にメールでコンタクトを取り、情報を得るなど、積極的に情報収集を行い、内容理解に努めた。RCJ運営委員会からは、RCJの現在抱えている課題について多くの意見を聞くことができ、良き連携関係を築きながら事前準備を進めていった。

また派遣団内でも、計4回のミーティングを行い、世代間対話等の本フォーラムのトピックス内容（p.09を参照）と日本のスカウティングを照らし合わせ、日本のスカウティングに

関する議論を進めた。日本連盟の全体像や近況を掴むために、派遣員内で役割を決め、日本連盟の公式ホームページの分析も行なった。この作業を通じて、ローバー以外の部門が行なっている活動や、その他環境保全に関する日本連盟の数ある取り組みについても知り、議論を行うことができ、国内スカウティングの理解に役立った。

その他、自分たちでスケジュールを合わせた他国派遣団との交流会を通じて、海外のスカウティングを知ると同時に、比較対象があることで見えてくる日本のスカウティングの特徴や課題もあった。また、派遣団としての事前集会在日程調節の難しさより、あまり多く取ることができなかったのだが、他国派遣団との交流を通じて、各派遣員の持ち合わせている知識を互いに共有することができた。

2.2.3 国内のスカウティングに関するアンケート調査

国内のローバーリングの現状を知るために、県代表やRCJの公式LINEを通じてRCJ県代表及び全国のローバースカウトを対象としたアンケート調査を行った。県代表29名、県代表以外のローバースカウト57名、計88名のスカウトが回答してくれた。APRで主に取り上げられていた青年参画やメンタルヘルスの質問を通して、国内の状況を調査した。世代間対話の評価は高かったものの、「ローバースカウトは県内で議決権を有しているか」という質問には半数が「分からない」と回答しており、RCJや県代表が議決権をはじめ青年参画の必要性を周知していくべきだと感じた。アンケート結果の詳細については下部の資料に添付している。

アンケートの作成の時間が確保できなかったため、質問や回答方法などアンケートの完成度が十分ではなかった。次回のフォーラム派遣団がアンケートを行う場合は内容の精査に時間をかけてほしい。

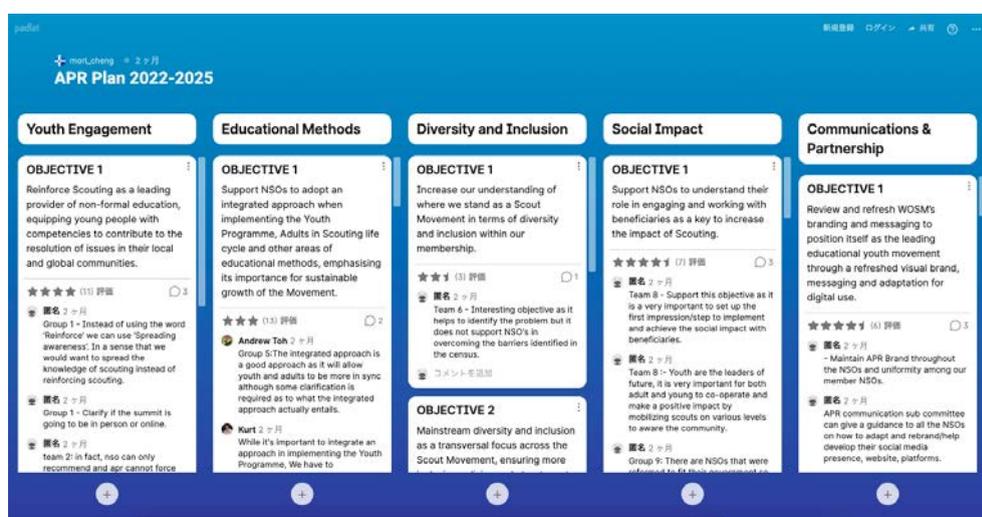


2.3 APRスカウトユースフォーラム事前セッション

2.3.1 インプットセッション

事前セッションでは、フォーラムの理解を深めることを目的に、具体的に今後何をするのか、そしてどのような組織が動いているのかを伝えるためのプレゼンが用意されていた。本フォーラムではインプットセッション、ディスカッションともに、5大トピックス（青年参画、今日の社会におけるスカウティングの役割、メンタルヘルスの認知、世界及びAPR3カ年計画の導入、世代間対話）が主な議論のテーマとなっていた。

今回のフォーラムの一部では、padletと呼ばれる意見投稿アプリを使用した。これは一つの問いに対し、参加者誰もが回答を投稿でき、その際に他の参加者がどのような答えを書いたかがすぐ分かるというものである。他の班のアイデアをすぐに参照できたので、答えの多様性が一目で分かり便利であった。



▲APRプラン2022-2025に関するテーマで使用したパドレット

パドレット資料：[APRプラン](#)、[世代間対話](#)、[社会とスカウティング](#)

その他、フォーラムで提言文について論議し合う前に、各分野の担当者もしくは専門家が、それぞれの分野の概要・現状と課題・ディスカッションのトピックについてプレゼンを行った。これはスカウトたちが現代社会と密接に関連した各分野のテーマについて深く理解するためであると同時に、ディスカッションの場におけるフォーラム参加者の積極的な参加を促すこと（2.3.2 グループディスカッションで詳述）を目的としたセッションである。具体的な内容としては以下の通り：

1月8日（土）

セッション名	内容・補足
Aims, Objectives and Working Methods	フォーラムの大まかな流れ・概要の説明。 フォーラムの原理・目的が詳しく紹介された。
Youth Programme Sub-Committee Progress Report	小委員会が以前に設定した目標到達度の報告。全体の3分の2が達成された。
WOSM Overview	世界スカウト機構の活動説明。その他関連した団体の説明も行われた。
Asia-Pacific Regional Challenges 2022 and beyond	現在の世界スカウト機構の方針に沿ったAPRの課題と、これからの活動方針についての説明。
Steering Committee	運営委員会の業務内容紹介と、テラー（Teller）の役割についての説明。
Recommendation Committee	推薦委員会の構造・役務・今後の予定についての説明。
Rules & Procedure (R&P)	フォーラムのルール確認、提言文採択の流れ、RYRの投票手順についての説明。
Tellers	テラー選出者の紹介、日本からは北村梨沙オブザーバーが就任。

1月15日（土）

セッション名	内容・補足
What is a Regional Youth Representative?	RYRの職務・意義・小委員会との連携についての説明。
Regional Youth Representatives Report	前RYRメンバーによる活動・成果報告。
What are Forum Recommendations?	提言文の意義と提出手順の説明。

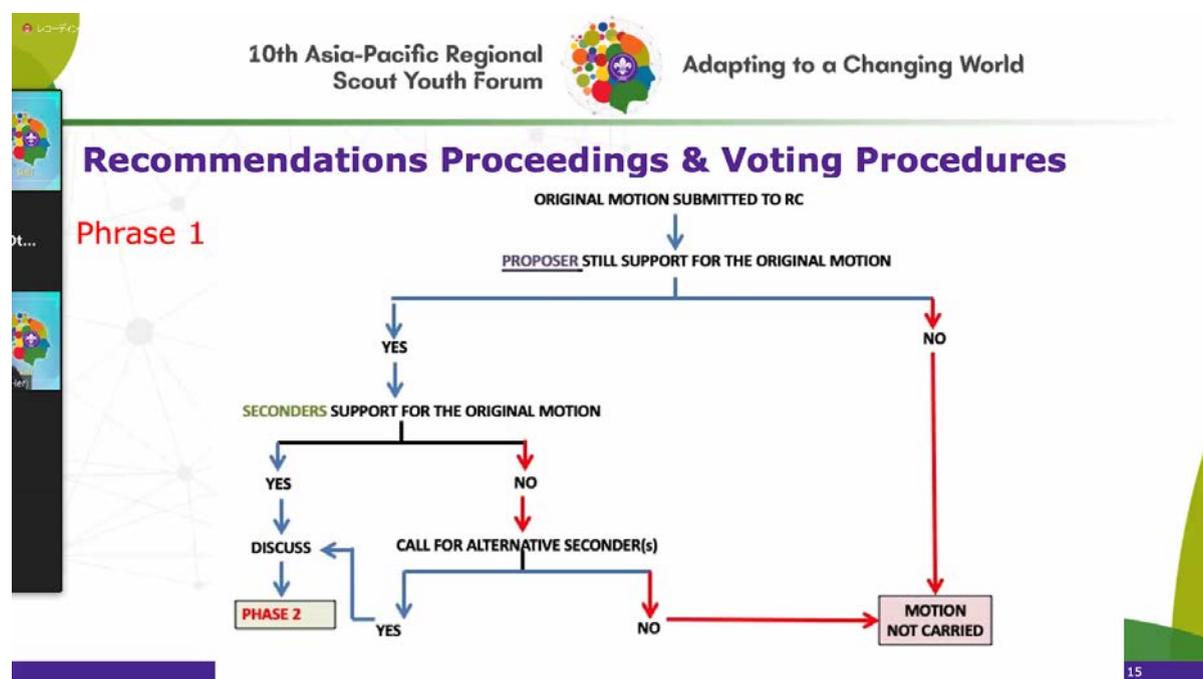
1月22日（土）

セッション名	内容・補足

What does Scouting mean to today's society?	APR内の活動実例を紹介。今日のスカウティングの意義を模索した。
Inter-generational Dialogue	指導者-スカウト間の対話の重要性・円滑なコミュニケーションの原則を学ぶ。

1月29日（土）

セッション名	内容・補足
World Triennial Plan & Regional Triennial Plan	2021～2024年のWOSM三カ年計画と2022～2025年のAPR三カ年計画の紹介。
Mental Health First Aid Scout NSW experience	メンタルヘルスの意義とオーストラリアのメンタルヘルスケア団体の活動紹介。



▲1月8日（土） Rules & Procedure (R&P)のプレゼンの一場面。

2.3.2 グループディスカッション

全4回にわたって行われた事前セッションのうち、後半3回のインプットセッションでは、多様な国籍のスカウト約8名で構成されたインターナショナルチームによるディスカッションが行われた。

ディスカッションテーマはインプットセッションの内容と関係しており、以下の表のような議題が展開された。チームにはAPR各国のスカウトが混在しているため、各連盟の組織の構図やスカウティングの現状をシェアすることが多く、テーマに関わる多様な事例を知る機会となった。チームの仲間とは1週間に1度顔を合わせるため、回を追うごとに仲良くなり、議論がスムーズに進んだ。

各回ごとにRYR候補者がファシリテーターとしてチームのディスカッションに加わり、参加者はグループディスカッションの時間を通してRYR候補者とコミュニケーションをとることができた。

日程	ディスカッションテーマ
1/15	<p>「ユースエンパワーメント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユースエンパワーメントに関する各国の課題 ・ユースエンパワーメント向上のために関係者ができることは何か (WOSM/APR・各国連盟・指導者・スカウト) ・地元のコミュニティや連盟でできることは何か
1/22	<p>「社会におけるスカウティング」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンデミック以降のスカウティングはどのように変化したか ・スカウトは今の社会をどのように支えていくべきか ・スカウト活動をより良いものにするためにはどのような工夫が必要か <p>「世代間対話」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間対話の障壁になるものは何か ・若者が意見を効果的に届けるためにはどのようなことが必要か ・異なる世代が協力し合うために必要なことは何か ・世代間での対話にはどんなメリットがあるか
1/29	<p>「メンタルヘルス」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各国のスカウトがメンタルヘルスのために行っている活動 ・各自の連盟やコミュニティがメンタルヘルス向上のために行うべきこと ・スカウトがメンタルヘルス向上のために行うべきことできること



▲グループディスカッションを行ったインターナショナルチームの集合写真

2.3.3 E-Votingセッション

この度のユースフォーラムではE-Voting（電子投票）による議決方法が採用された。そのため、事前準備の段階から、E-Votingに関するセッションが2月4日（金）日本時間19:00から各国代表に向けて行われた。E-VotingシステムセッションではWOSMのE-Votingサポートチームが各国代表者2名に向けて模擬投票を実施し、十分な質疑応答の時間を設けてくれた。日本派遣団代表2名も参加し、セッション内で模擬投票を行い、事前に電子投票の手順を確認することができたため、本番でも特に問題なくスムーズに投票が行えた。

2.3.4 Teller会議

ユースフォーラムではTellerという選挙管理委員のような役職があり、ユースの立場から選挙の透明性を確保するために、選挙の運営とAPRの役員への選挙結果のコピーの提出を行う。TellerはオブザーバーかつR/YR立候補者が出ていないNSOから計3名選出される。選考プロセスの詳細は明確化されていない。

今回日本からR/YRが立候補していないということで、R/YRの議長から日本派遣団の代表に連絡があり、オブザーバーである北村がTellerを務めることとなった。今回のAPRフォーラムでは主に提言文の投票の管理、R/YRの選挙の管理や集計を行った。フォーラム期間前は1月28日、2月7日、2月8日、フォーラム期間中は2月10日と11日に打ち合わせを行った。

下の画像はオフプレナリーセッションでTellerが紹介された際のスライドである。TellerはオーストラリアのBryn Catlin、ブルネイのArifah Najiah Binti Mohammad Hassan、そして北村の計3名、そしてそのサポートにあたったのがAPRサポートスタッフのSyd Castillo氏であった。

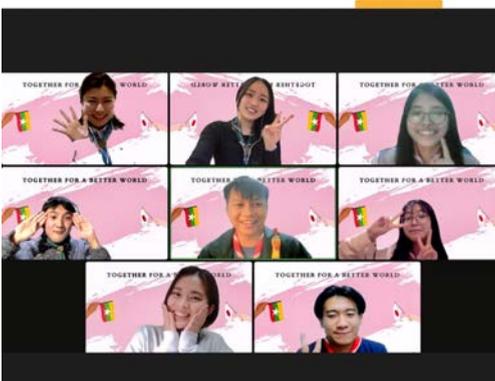


2.4 他国代表団との意見交換

フォーラム期間を通して、RYR立候補者のいる13の派遣団とミーティングを行った。ミーティングは1時間から1時間半程度行った。ミーティングでは主に自己紹介、お互いの国の組織についてやローバースカウトを取り巻く環境について議論した。ミーティングを通して、各NSOの状況やRYR立候補者の熱意や立候補理由、人柄などを知ることができた。特にRYRの立候補者について詳しく知ったことでRYRの選考の質が上がったと感じる。

他国派遣団と行ったミーティングはAPRフォーラムのInstagramの投稿やストーリー、Facebookにミーティングで内容と共に掲載した。また日本連盟やRCJの説明するスライドは世界フォーラム以下のものを使用した。

表1 他国派遣団とのミーティング日時とその様子（派遣団Instagram投稿画像より）

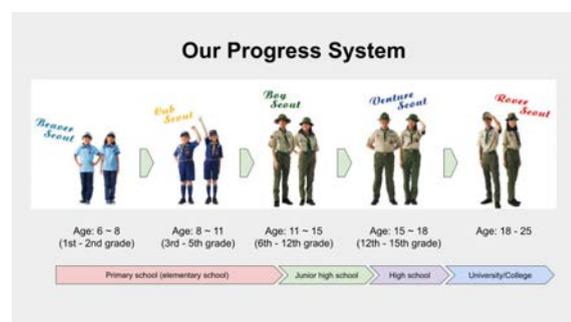
<p>1/14 22:00</p> <p>香港</p>		<p>1/15 22:00</p> <p>インド</p>	
<p>1/24 22:00</p> <p>韓国</p>		<p>1/26 20:00</p> <p>台湾</p>	
<p>1/31 22:00</p> <p>フィリピン</p>		<p>2/1 22:00</p> <p>ミャンマー</p>	

<p>2/1 23:00</p> <p>バング ラデ シュ</p>	<p>Bangladesh </p> 	<p>2/3 22:00</p> <p>インド ネシア</p>	<p>Indonesia </p> 
<p>2/3 23:00</p> <p>マレー シア</p>	<p>Malaysia </p> 	<p>2/4 22:15</p> <p>ネパー ル</p>	<p>Nepal </p> 
<p>2/5 18:00</p> <p>モル ディブ</p>	<p>Maldives </p> 	<p>2/5 21:00</p> <p>タイ</p>	<p>Thailand </p> 



海外派遣団とのミーティング時には以下のスライド（一部抜粋）を使用した。一部世界フォーラムで使用したスライドを引用した。内容としては日本連盟の組織について、全国ローバースカウト会議（RCJ）の構造や取り組み、ビジョン、その他のローバーコミュニティなどを取り上げた。

口頭で説明することもできたが、スライドがあることで、海外スカウトに向けてより効果的に日本のスカウティングについて伝えられたと思う。また、スライドの内容に沿って海外の状況を具体的に聞くことができたのは大きな収穫であった。ミーティングで議論した詳しい内容はInstagramに掲載しているので、そちらを参照されたい。



2.5 広報活動

派遣団の動向や、APRスカウトユースフォーラムとは何か、などの情報をより多くの人々に伝えることを目的として、我々はFacebook・Instagramを通じた広報活動に力を注いだ。FacebookとInstagramの特性やターゲットを考慮して英語の翻訳文を載せたり、メディアによって画像に変更を加えるなど工夫した。両方のツールは他NSOの派遣団と交流し、フォーラムへ向けての情報共有を行うきっかけとなった。フォーラム参加の感想や、参加者しか知り得ない情報、他国派遣団との交流報告と各国スカウト豆知識など、自分たちの伝えたい情報を即座に届けることができた。次回派遣の際も、余裕を持って広報計画を策定し、実用的なメディアの活用を通じて、海外派遣団との交流を行ったり、情報の発信を行うことを推奨する。

昨年開催された世界フォーラム同様、日本を代表する富士をモチーフにロゴとバーチャル背景を作成した。バーチャル背景には代表・オブザーバー、そして名前の表記をした。



▲ 広報用10APRSYF日本派遣団ロゴ

▲ 実際に使用したバーチャル背景

ロゴとバーチャル背景はCanvaという画像作成ツールを使用して作成した。日本のスカウティングの日の出という意味を込めて、富士山と太陽をモチーフに作成した。Instagramのアイコンとして利用するため、ロゴは円形の画像とした。バーチャル背景はアイコンと異なり、画面に明るく映るよう白い背景を使用した。

2.5.1 Facebook運営

投稿は派遣団メンバーの広報係が担当し、フォーラム期間外は不定期での更新、フォーラム期間中は出来る限り会議翌日以内の更新を基本方針とした。誰がどの文章を書くかは事前の会議で決め、派遣団内のSlackで事実確認・表現の仕方について投稿前に校閲を毎回行った。全世界の人に情報を発信することを前提に、日本語の下に英語の翻訳も載せた。写真は執筆したメンバーの会議時の様子を先頭に、当日のプレゼン・話し合いの様子をスクリーンショット・スマホで撮影したものを並べた。

初投稿はフォーラムが始まる1週間前と遅めであったものの、ボーイスカウト日本連盟の公式ホームページを通じた宣伝のおかげで初期の認知度は意外にも高いものであった。初期の段階でフォロワーを57人獲得した成果は自分たちの予想より大きかった。また投稿をする度に、海外を含めたボーイスカウト関係者の方々から毎回10以上の「いいね」、「頑張れ」や「お疲れ様でした」などの心優しいコメントを頂いたため、派遣団メンバー全員のモチベーションへと繋がった。

Facebookの特性として、一度に大量の文を投稿可能という利点があるため、各メンバーは会議の事実のみならず、当時の心境や次に活かすべき反省点などを自由に書き記すことができた。その結果、メンバー内でのフォーラムの意見・感想を共有し合う時間が増えた。外部への情報発信・仲間内でのコミュニケーションの潤滑油となったことから、今回のFacebook運営はかなり有意義なもので、大成功だったと言える。



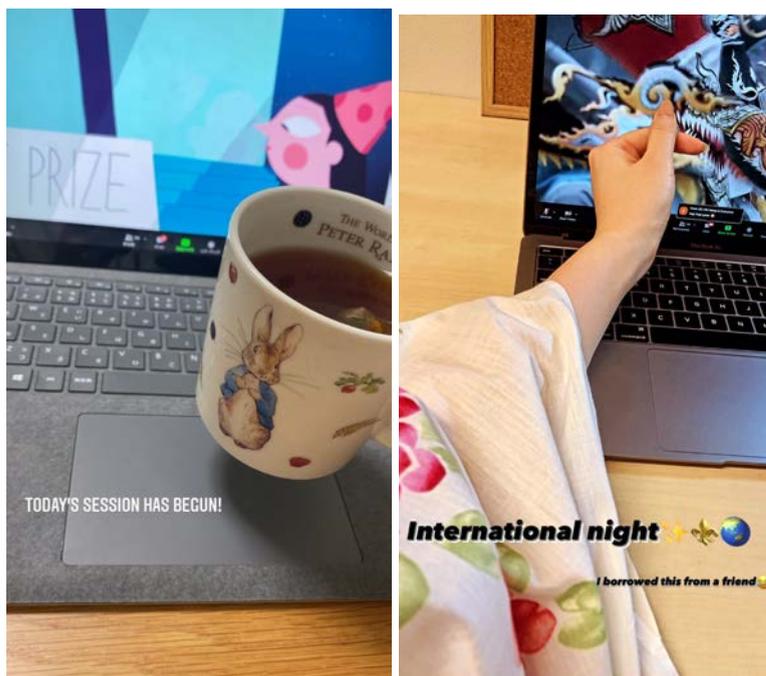
▲ 日本派遣団Facebookの投稿例

2.5.2 Instagram運営

本派遣ではFacebookに加え、Instagramも運用した。Instagramにはフォーラムの様子や海外派遣団との交流ミーティングやその内容、Facebook同様にフォーラムの1日ごとのまとめを投稿した。Instagramは国内外問わず若いローバー年代中心に気軽に本派遣を知ってもらえるよう、ストーリー（24時間で消える投稿）を多くあげたり、日英両方で投稿をしたり、目を惹きつけるような画像の作成を行った。またメンバーが気軽に投稿できるよう、重要事項以外の投稿は校閲を無くした。



▲ インスタグラムホーム画面



▲ 派遣期間中のストーリー投稿

3月20日時点で国内国外から合計で145の方にフォローしてもらった。投稿には平均で40件前後のいいねをしてもらえた。Facebookのみの場合よりもスカウトに情報を届けられたと感じた。また、Instagramを通じて多くのRYPやAPRスカウトユースフォーラムに参加しているスカウトと繋がることができ、フォーラム中の投票や議論に役立ったため、非常に良かったと思う。Instagramは連絡ツールとしても非常に有効であり、実際にInstagramを通じてミーティングに至った他国派遣団もあった。

その他、今回はAPR地域のイベントであるということで、APR特有の文化を発信することにも注力した。

派遣準備期間に旧正月を迎えるため、進学のため台湾に在住している小林より、ストーリーにて旧正月に関する豆知識を紹介する投稿を三度行った。APR内では7つの国と地域が旧正月を過ごす、日本にはあまり馴染みのない節日であるので、APR地域の文化に親しみを持ってもらおうという意図で行った活動であった。

実際の投稿の様子▶



▼詳しい派遣団のFacebook・Instagram投稿内容は以下のQRコードより参照

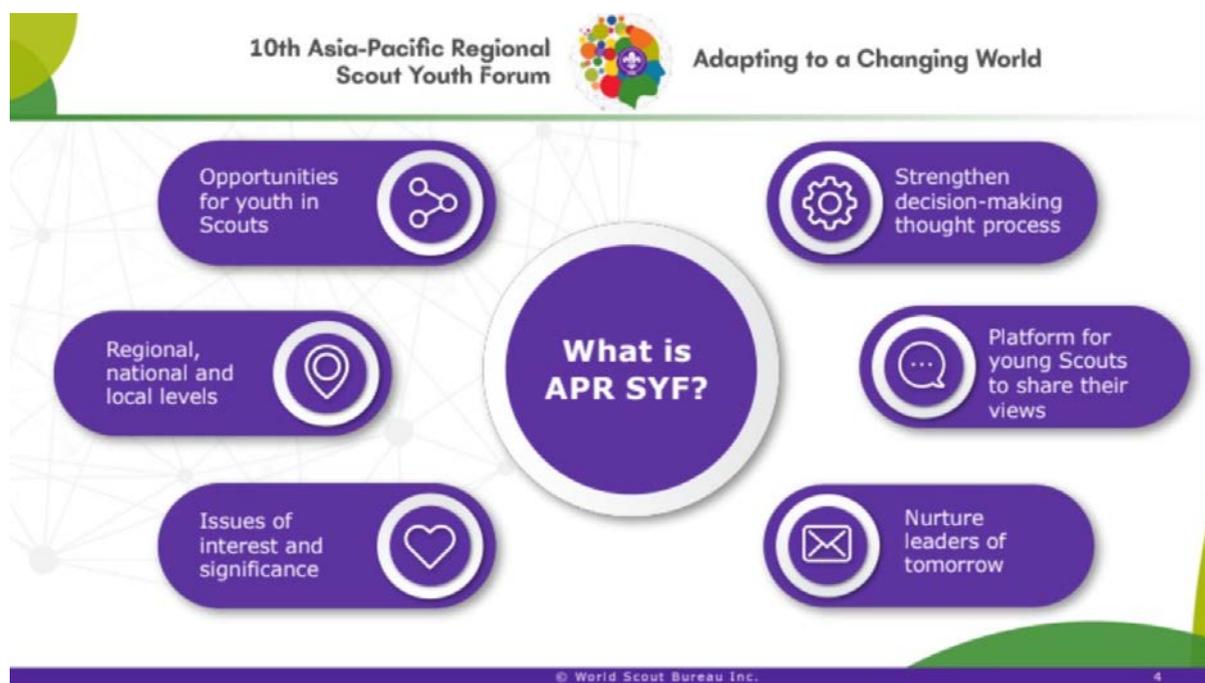


3. 第10回APRスカウトユースフォーラム

3.1 概要

APRスカウトユースフォーラムではアジア太平洋地域の18歳～25歳のスカウトが議論を行う。今回のAPRスカウトユースフォーラムは2022年2月9日から13日（11日を除く）にかけて行われた。例年とは異なり、フォーラム開始前の1月8日から毎週土曜日にインプットセッションが計4回開かれた。27ヶ国から代表54名、オブザーバー141名の計195名（男性は107名、女性は88名）が参加した。本来、台湾の台北で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オンラインでの開催となった。フォーラムでは主にAPR委員会へ提出する提言文の作成が行われた。

また、APRスカウトユースフォーラムは6つの目標が掲げられていた（画像参照）。それぞれ、ユースの参画機会、地域・国・地方レベル、意義のある重要な問題、意思決定における思考プロセスの強化、ユースのための意見共有プラットフォーム、明日のリーダーの育成、である。これらの6つをフォーラム期間を通して達成できる、また達成に近づくことができるように、参加者はプログラムに積極的に参画をした。



▲1月8日（土）Aims, Objectives and Working Methodsのプレゼンの一場面

3.2 スケジュール

今回のAPRフォーラムは以下のスケジュールで行われた。

日付/ 時間	プレナリーセッション				
	2/9	2/10	2/12	2/13	
17:00 ~ 17:15	アナウンス ● アイスブレイク ● 振り返り				
17:16 ~ 17:30	オープニングセレモニー - Welcome and Roll Call - Remarks by Youth Forum Chairman - Message by the AP RD - Message on behalf of the AP RSC	選考プロセスの説明	ユースフォーラム提言文の修正案の投票	-代表に向けたシステムのログインを含める 選考プロセスの説明 -RYPの任務の再確認	
17:31 ~ 17:45		E-Votingシステムの確認		RYPの投票 RYP (2022-2025) へのアナウンス	
17:46 ~ 18:00					
18:00 ~ 18:15					
18:16 ~ 18:30	基調講演 質疑応答	ユースフォーラム提言文の修正案の投票	ユースフォーラムの提言文の投票と採択	RYP議長の選出 (RYP当選者間で行う)	
18:31 ~ 18:45					プレナリーはユースフォーラムの評価を回答してから開始
18:46 ~ 19:00					
19:00 ~ 19:15					
19:16 ~ 19:30	休憩		休憩	休憩	
19:31 ~ 19:45	RYP立候補者の紹介	休憩	ユースフォーラムの提言文の投票と採択	最終宣言の紹介	
19:46 ~ 20:00					オープンフォーラムと評価
20:00 ~ 20:15					
20:16 ~ 20:30					
20:31 ~ 20:45	ユースフォーラム提言文の修正案の投票	インターナショナルナイト		クロージングセレモニー	
20:46 ~ 21:00					
21:00 ~ 21:15					
21:16 ~ 21:30					
	延長				

3.3 オープニングセレモニー・キーノートセッション

オープニングセレモニーは、各参加NSOのコールから始まり、その後に本ユースフォーラム議長を始めとする方々からフォーラム参加に関する激励の言葉をいただいた。WOSM事務総長Ahmad Alhendawi氏、APRスカウト委員会委員長Ahmad Rusdi氏、スカウト教育法ディレクターSyd Castillo氏に、それぞれ約10~20分間程度の時間が設けられた。

キーノートセッションは、デジタル・ソーシャルメディア本部長のChinno Marquez氏が担当した。内容はスカウティングの本質について扱ったものであり、聞いていて納得する場面が多々あった。こうして海外の方の話を聞く機会はなかなかないため、このセッションだけでも非常に有意義な時間を過ごすことができた。



▲Chinno Marquez氏のキーノートセッション。

3.4 RYR選挙

Regional Youth Representative (RYR) とは、APR地域の代表スカウト7名からなる青年代表団である。RYRは、APRスカウトユースフォーラムで行われる「RYR選挙」にて、参加代表団による投票を経て決定される。フォーラムに参加する代表団の中で代表 (Delegate) を務めるスカウトは誰でもRYRに立候補することができるが、立候補時点で26歳以下であることが条件となる。

APRスカウトユースフォーラムのRYR選挙で選ばれた代表7名は、6つのAPR小委員会に1人ずつ所属、残り1名はチェアマンとして、3年間の任期の間APR地域のスカウト活動の改善に関わることができる。RYR制度はAPR規模の青年参画の代表例と言える。

私たち日本派遣団もAPRのスカウティングを支える代表を決めるため、多くの話し合いを重ねた。候補者一人ひとりとオンラインミーティングをし、ビジョンを聞いたり課題を共有したりディスカッションを行ったりする中で、代表に相応しいスカウトを定め投票した。

3.4.1 YAMGからRYRへ名称変更の経緯

2019年鹿児島で行われたAPRスカウト委員会にてYAMG(Young Adult Management Group)の名称をRYR(Regional Youth Representative)に変更する旨が決定された。主な理由としてはRYRのブランディングを強化するためであり、ユースの代表であるということ(APR加盟員に対して強調できるよう、マネジメントグループという名から代表という名称に変更された。また、小委員会の一委員としてユースの意見を小委員会に伝えるという職務も併せ持っているため、グループとしてではなく、代表という名を使用するようになった。

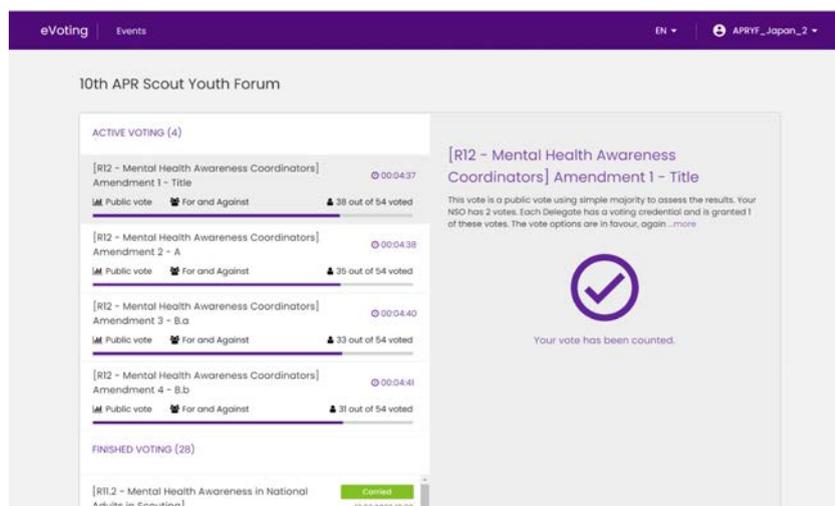
3.4.2 候補者紹介

今回のRYR候補者は14名だった。比較的年齢が若く男女比のバランスも良い印象だった。

	候補者名	年齢	加盟国
1	HUMAYRA IBNAT BADHON	23	バングラデシュ
2	SINGYE RINCHEN	20	ブータン
3	HUANG, KUANG-YAO	18	台湾
4	NG KOON-TAT ADDISON	20	香港
5	SUPREETH BALAJI	20	インド
6	VILDY ZULHIZ MARETHA DEWI	22	インドネシア
7	JEON GARAM	21	韓国
8	ZAIRIN ADAM BIN ABDUL AZIZ	23	マレーシア
9	MOHAMED IUJAAZ YAZEED	23	モルジブ
10	THIHA AUNG	22	ミャンマー
11	SAURAB NEUPANE	21	ネパール
12	DIANNE EDEN I. VILLASIS	20	フィリピン
13	WACHIRAWIT PHENSANGTHANANON	19	タイ
14	NGUYEN TIEU QUANG THANH	25	ベトナム

3.4.3 E-Voting選挙

決議の投票は全てWOSMが管理するE-Votingシステムを利用して行われた。E-Votingシステムは、事前にアカウントを登録した各国派遣団の代表者（日本派遣団からは小林・小池）のみがアクセスすることができた。各議案に対し1人2票投票することができるため、投票者は持ち票を賛成・反対・棄権に入れることとなる。国によってインターネット環境が異なるため、各議案に約5分程度投票の時間が設けられているが、一定の制限時間以内に投票しなかった場合、無投票扱いとなる。



◀E-Votingの様子

3.4.4 選挙結果、及び各ポスト配置

選挙の結果、RYRメンバーは以下のような結果となった。各ポストは、投票で決まったRYR達自身の話し合いによって決められた。

名前 (国)	ポスト
Dianne Eden I. Villasis (フィリピン)	Chairman
Mohamed Iujaaz Yazeed (モルジブ)	Youth Engagement
Supreeth Balaji (インド)	Educational Methods
Humayra Ibnat Badhon (バングラデシュ)	Diversity and Inclusion
Zairin Adam Abdul Aziz (マレーシア)	Social Impact
Ng Koon-tat Addison (香港)	Communications and External Relation
Garam Jeon (韓国)	Governance



▲ 決定したRYR

左上段からHumayra Ibnat Badhon、Ng Koon-tat Addison、Supreeth Balaji
中段からGaram Jeon、Zairin Adam Abdul Aziz、Mohamed Iujaaz Yazeed
下段がDianne Eden I. Villasis

3.5 提言文

提言文 (Recommendation) とは、ユースフォーラムにおいて行われた議論をまとめ、現行のAPR、もしくは各国の制度、慣習等を改善するための提言を進呈するためのものである。そのため、これらの提言はWOSM、APR、またはアジア太平洋地域の全NSO等のあらゆる組織に対するものであり、各提言文ごとにその対象は異なる。今回の提言文は前回のフォーラム期間中に作成する方法とは異なり、フォーラム期間前に各国代表団での作成が必要であった。本フォーラムで承認された13の提言は次回の第11回APRスカウトユースフォーラム・APRスカウト会議までに実行されることが期待される。

3.5.1 提言文承認までの流れ

提言文承認までの過程は以下の流れで行われた。ここではフォーラム期間前、期間中、終了後に分けて説明する。提言文承認の過程は全て、フォーラム内の提言文委員会 (Recommendation Committee) によって進行される。

フォーラム期間前

内容	詳細
1. 各国代表団が提言案を作成	フォーラム前に各国代表団が事前セッションでの議論や現行の制度、各国、各小委員会の現状を踏まえ、提言文の案を作成する。
2. 提言案のセカンダークラス3ヶ国を集める	提言文作成者（NSO）は提言文を支持するセカンダークラスNSOを3カ国集める。これは主に各国同士のミーティングを経て行われた。
3. 提言文委員会に提言案を提出	3ヶ国のセカンダークラスが確保できれば提出となる。また、セカンダークラスが3ヶ国集まらなかった場合は提出できない。

フォーラム期間中

内容	詳細
1. 提言案提出の確認	提言案の発案者、セカンダークラスに対し、提言案を提出するか否かの最終確認が行われる。
2. 提言文に対する修正案を提出	提出された提言案に対し、各国代表団は修正案を提出できる。修正案に対しても、発案者・1カ国のセカンダークラスが必要となる。
3. 多数決投票による提言案・修正案の承認	提言案・修正案に対して最終の修正・意見が出され、問題がなければオンライン投票に移る。棄権を除く票数による多数決で提言案、修正案の可否が決まる。
4. フォーラム内で提言文が採択される	賛成過半数で承認された提言案、修正案は正式に第10回APRスカウトユースフォーラムの提言文として採択される。

フォーラム終了後

内容	詳細
1. 提言文をスカウト会議へ決議案として提出	フォーラムにて承認された提言文は第27回APRスカウト会議の決議案として提出される。
2. スカウト会議内で決議文として採択	提出された決議案はスカウト会議内におけるオンライン投票にて賛成過半数で可決された場合、正式な決議文として採択される。

3.5.2 提言文紹介

ここでは本フォーラムで承認された13の提言文を紹介する。ここでは和訳した内容を掲載しているが、原文は以下の文書を参照されたい。

資料：[Document No. 17 "Report on 10th APR Scout Youth Forum"](#) (p.11~)

提言文 1

各国における青年参画戦略の策定、見直し、改良に関する支援 Support on Developing, Reviewing and Refining National Youth Engagement Strategy			
提案者	香港	セカンダリー	モルディブ、台湾、マレーシア
内容	<p>A. アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会およびユースエンゲージメント小委員会が、NSOの発展をサポートし、適切であればユースメンバーのニーズに対応した各国青年参画戦略を策定、見直し及び改善を施すことを提言する。</p> <p>B. さらに、前述の「各国青年参画戦略」は、以下の通りであることが推奨される。</p> <p>a. 適切であれば、国のユースプログラム方針、成人スカウト方針、全国ユース議会及び委員会の規約と密接に関連させること。</p> <p>b. 世界スカウト青少年参画方針と世界スカウト青少年参画戦略を参考に、Youth Involvement、Youth Engagement、Youth Empowermentの概念を各レベルにおいて、詳細な解釈文を用いて定義すること。</p> <p>c. 隊、地区、地域、国レベルにおいて、あらゆる年齢の若者のための学習機会を特定すること。</p> <p>d. 若者の貢献と功績を認識すること。</p> <p>e. 各国の理事会や委員会など、意思決定機関におけるユースの代表を増やすこと。</p> <p>f. アジア環太平洋地域3カ年計画に従って、3カ年の行動計画を立てることが望ましい。</p> <p>g. これらは既存の評価過程の対象となること。</p> <p>これは2022年から2025年の3カ年終了以前に実行されるべきである。</p>		
背景	<p>世界スカウト青少年参画戦略の項目 5.1.2 と 5.3.2 が以下のように記述されていることを認識すること。</p> <p>"5.1.2 各国の青年プログラムの内容の見直しと設計を支援し、スカウト教育法全要素の適用とその実行による青年参画を強化すること。"</p> <p>"5.3.2 世界スカウト青少年参画方針に沿って、各国の青年参画方針の数を増やすこと。これ</p>		



	<p>にはすべての年齢区分と意思決定機関のための明確な構造、ツール、プロセス、目的、指標が含まれる。”</p> <p>さらに、第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムの決議7が推奨することを認識する。</p> <p>”アジア太平洋地域スカウト委員会とユースプログラム小委員会は、各NSOが速やかに以下の開発を進めるよう支援すること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界スカウト青少年参画方針に基づいた各国独自の青年参画方針 ・世界スカウト青少年プログラム方針に基づいた各国独自のユースプログラム方針。 <p>これは第27回アジア太平洋地域会議までに実行されるべきである。”</p> <p>NSOは、世界スカウト青少年参画方針と世界スカウト青少年プログラム方針を参考に、各国独自の青年参画戦略を策定することができる。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

提言文2

<p>国内の意思決定機関における青年代表の実質的確保 Ensuring Representation of Young Adults in Substantial National Decision-making Bodies</p>			
提案者	香港	セカンダリー	モルディブ、フィリピン、マレーシア
内容	<p>A. アジア太平洋地域スカウト・ユース・フォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会、ユース・エンゲージメント小委員会、ガバナンス小委員会に対し、各NSOの実質的な意思決定機関において、代表の最低10%が30歳未満のメンバーで構成され、青年が積極的に意思決定プロセスへ参画できるよう支援することを推奨する。これらの青年代表は、完全な投票権を持つメンバーであることが望ましい。</p> <p>B. また、アジア太平洋地域スカウト委員会および/またはユースエンゲージメント小委員会からの支援は、世代間対話トレーニング、ワークショップ、知識共有セッション、セミナーなどの形で行うことが推奨される。</p> <p>これは2022年から2025年の3カ年終了以前に実行されるべきである。</p>		
背景	<p>以下に述べる第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムにおける提言文14を認識する。</p> <p>”ユースフォーラムは、各NSOの意思決定機関において青年代表を10%増やすため支援するよう要請する。これは、各NSOの次年度計画サイクルから施行され、継続させられるべきである。”</p> <p>また、アジア太平洋地域2018-2021三カ年計画中の青少年セクション項目1.1では、NSOに以下のことが推奨されている。</p> <p>”NSO理事会、教育法および/または青少年プログラム委員会、ならびに地域および地区レ</p>		



	<p>ベルでの意思決定プロセスにおいて30歳未満の青年を積極的に参加させること。”</p> <p>そして、第42回世界スカウト会議資料10に規定された「青年参画戦略」の主要目標3.4が以下のように規定されていることを認識する。</p> <p>”国や地域、WOSMなどの世界レベルにおける様々な意思決定機関や運営フレームワークの代表が少なくとも40%の青年で構成されるよう基準を高め、彼らの完全な参画を支援すること。”</p> <p>第42回世界スカウト会議が定めた基準を満たすためにはAPRにおいて今尚多くの努力が必要とされている。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

提言文 3

<p>ユースフォーラムガイドラインの修正 Amendment to Youth Forum Guidelines</p>			
提案者	台湾	セカンダリー	香港、タイ、ネパール
内容	<p>アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムガイドライン第I部 第V節 第2項(a)を承認する。:</p> <p>“地域スカウトユースフォーラムの参加者は、フォーラム開催期間中に18～26歳でなければならない。”</p> <p>アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト・ユース・フォーラムに関するガイドライン第II部 第II節 第項を以下のように更新することを推奨する。</p> <p>“RYRの候補者はWOSMのメンバーでなければならない、ユースフォーラムの代表でなければならない。候補者は、フォーラムの全期間中、18～26歳でなければならない。”</p> <p>これは、第11回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムまでに実施されるべきである。</p>		
背景	<p>現行のアジア太平洋地域スカウトユースフォーラムガイドライン第II部第II節第2項では、以下のように規定されている。:</p> <p>“RYRの候補者はWOSMのメンバーでなければならない、ユースフォーラムの代表でなければならない。候補者は、大会中にRYRとして正式に発表される任命開始時点で26歳の誕生日を迎えてはならない。”</p> <p>前述の第2項では、APRSYFの代表者はユースフォーラムに参加することはできるが、その</p>		

	<p>者がユースフォーラム終了後、次のAPRスカウト会議で正式にRYRとして発表され任命されるまでの間に26歳の誕生日を迎える場合は、立候補することができない。</p> <p>この提言文では、RYR候補者の年齢制限をユースフォーラム参加者の年齢制限と一致させ、RYR候補者とAPRSYFの代表者が同じ年齢制限の対象となる。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議不提出

提言文 4

<p>地域とNSOにて意義ある青年参画の障壁を特定する報告書の作成 Production of a Report on Identifying Barriers to Meaningful Youth Participation in the Region and the NSOs</p>			
提案者	モルディブ	セカンダー	香港、フィリピン、ニュージーランド
内容	<p>アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会とユースエンゲージメント小委員会が、アジア太平洋地域とそのNSOにおけるあらゆるレベルの有意義な青年参画に対する制度的、構造的、文化的障壁と、これらの障壁を克服する機会と提言を特定する報告書を作成することを推奨する。</p> <p>さらに、この報告書を作成するにあたり、アジア太平洋地域スカウト委員会およびユースエンゲージメント小委員会は、以下を行うことを推奨する。</p> <p>APRのNSOにおいてスカウトメンバーおよびスカウトリーダーを対象とした調査を実施し、NSOと世代間対話および議論を行い、青年参画に対する制度的、構造的、文化的障壁とその可能な解決策を調査する。</p> <p>地域レベルおよび国家レベルで青年参画を促進するため利用できる機会を特定し、報告書の結果に基づき、有意義な青年参画を促進するため、これらのレベルで取ることができる行動を提言する。</p> <p>APRのNSOが若者を意思決定に関与させるために適用できる実践的なモデルやガイドラインを策定する。</p> <p>これは2022年から2025年の3カ年終了以前に実行されるべきである。</p>		
背景	<p>第42回世界スカウト会議決議番号2021-07 “ユースアドバイザー制度と意思決定への青年参画”を認識すること。</p> <p>世界スカウト青年参画戦略の項目 5.1.2 と 5.3.1 が次のように記述されていることを認識する。</p> <p>”5.1.2 各国の青年プログラムの内容の見直しと設計を支援し、スカウト教育法全要素の適用とその実行による青年参画を強化すること。”</p>		

	<p>"5.3.1 スカウト運動内およびスカウト活動外における意思決定への青年参画を高めるための潜在的な貢献を強化することを目的として、全てのレベルにおける既存の構造、機構、システムをすべて見直すこと。";</p> <p>また、地域における青年参画をさらに進める必要性を認識する。</p> <p>この提言文は、当地域における青年参画を妨げている問題を理解し、この文化的に多様な地域とそのNSOに適用できる解決策を見つけるのに役立つであろう。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

提言文 5

ユースリーダーシップトレーニングコースによる若者の能力開発 Capacity Building for Young Adults through Youth Leadership Training Course			
提案者	モルディブ	セカンダリー	香港、フィリピン、ニュージーランド
内容	<p>A: アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会およびユースエンゲージメント小委員会が、地域および国レベルの若年成人をNSOおよびコミュニティにおけるリーダー、またチェンジメーカーとして育成するため、能力開発の機会を提供し支援することを推奨する。</p> <p>B: 前述のことを達成するために、さらに以下のことを提言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. ユースリーダーシップトレーニングコースを、次の3年以内に開始する。 b. ユースリーダーシップトレーニングコースの持続性を確保するために、コースの開催頻度を決定する。 c. リーダーシップスキルに関する様々なワークショップを、毎年オンラインまたは対面で開催する。 d. NSOが国レベルで同様のプログラムを実施・確立するためのガイドラインを、アジア太平洋地域支援センターからの十分な支援を受け、次の3カ年中期までに作成すること。 <p>これは2022年から2025年の3カ年終了以前に実行されるべきである。</p>		
背景	<p>世界青少年参画戦略の項目 5.1.3 と 5.3.5 には以下のように記載されている。</p> <p>"5.1.3 NSOが若者に同様の機会を提供できるよう支援すること。新しいスキルの育成と、若者が既存のスキルを適用し、さらに発展させる機会を第10回アジア太平洋地域スカウト</p>		



	<p>ユースフォーラムで提供する。”</p> <p>”5.3.5 メンタリングプログラムとリーダーシップトレーニングのメカニズムを開発し、若者がユースのチームやあらゆるレベルの意思決定機関においてスキルを開発することを支援すること。”</p> <p>第9回APRスカウトユースフォーラムの提言No.19と、そのようなリーダーシップトレーニングコースを実施するためにRYRが行う取組を認識すること。 APRユースリーダーシップトレーニングコースのような地域プログラムの開始と継続、NSOレベルにおける同様のプログラムの実施を確保することによって、このようなプログラムの持続可能性を確保する必要がある。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議への提出なし

提言文 6

<p>アジア太平洋地域スカウトムートの再興 Re-establish the Asia-Pacific Regional Scout Moot</p>			
提案者	フィリピン	セカンダリー	シンガポール、マレーシア、ネパール
内容	<p>アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、次のことを提言する。</p> <p>A: アジア太平洋地域スカウト委員会は、アジア太平洋地域スカウトムート（APRSM）の一貫性を再確立し、できれば3年ごとに開催し、世界行事と重複しないことを確保すること。</p> <p>B: APRSMは、より多くのNSOをつなぐことを目的に、若年同士がAPR地域の他のスカウトと交流できるよう、地域発展のイベントのショーケースとなるべきである。</p> <p>C: アジア太平洋地域は、「世界スカウト大会開催のための WOSM ガイドライン」を適宜採択し、必要であれば修正し、同地域が合計 30 の NSO で構成されていることを認識する。</p> <p>D: アジア太平洋地域は、「世界スカウトイベントのための入札者の行動規範（APRSM の開催地の入札者のため）」を採択する。次回のスカウトムートの入札は、アジア太平洋地域の大会期間中に行うことができる。各3年ごとに開催される地域スカウト会議とスカウトムートは、順番に次の3年目に開催されるものとする。</p> <p>これは、2022-2025年の3年以内に実施されるべきであり、また、次の3年以内に実施されるべきであり、また3年ごとに評価する。</p>		
背景	<p>過去のアジア太平洋地域スカウトムートは、不規則に開催されてきた。</p> <p>第11回APRSM（1999年） 第12回APRSM(2002年) 第13回APRSM（2019年）</p>		

	<p>またこれらは少数のNSOによって交互に開催されてきた。</p> <p>さらに、85%（13回中11回）のAPRスカウトムートが、APR地域の単独イベントではなく、アジア太平洋地域のナショナルスカウト機構（NSO）におけるナショナルローバームートと連動している。</p> <p>既にAPRスカウトムートを開催しているNSOを除く全てのNSOは、APRスカウトムートはAPRが開催を奨励する。これにより、他のNSOもAPRの指導のもと、同イベントの主催者となる機会を均等に提供する。</p> <p>世界スカウト委員会によるYouth Engagement Strategyの項目 5.1.1には以下のように記載されている。</p> <p>"5.1.1 青少年の参加はスカウトの重要な教育的要素であると認識すること。スカウト教育法に深く根ざした運動とその強化をあらゆるレベルのスカウトのあらゆる側面で実施すること。"</p> <p>上記の項目5.1.1に沿って、アジア太平洋地域に属するローバースカウトと同等のメンバーの集まりは、青少年のためのスカウトプログラムの集大成となる。スカウトの社会貢献の究極の形は、技術力と情熱のある人材を育成することと、世界に貢献できるオールラウンドな若者たちを育てることである。</p> <p>APRスカウトムートの成功は、APRの以下の点を強調し、強化することである。世界スカウトムート開催への信頼性、特に世界スカウトムート開催NSOの大半が欧州NSOであったことは注目に値する。</p> <p>APRローバームートの基準を再構築することは、地域の信頼性と世界スカウトムート開催への機会を高めることとなる。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

提言文 7

<p>YAMGコーディネーターフレームワークの見直し Review on the YAMG Coordinator Framework</p>			
提案者	フィリピン	セカンダリー	香港、モルディブ、インド
内容	<p>アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、以下のことを推奨する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 地域ユース代表（RYR）およびエンゲージメント小委員会は、ヤングアダルトメンバーグループ（YAMG）コーディネーターの枠組みを見直し、必要であれば改訂を行うこと。 - 適切な場合、改訂された YAMG コーディネーターの枠組みは以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> o より多くの若者が意思決定能力を身につけるための更なるエンパワメントを行う。 o 地域レベルにおいて異なるNSO間の若者の参加を強化する。 o 効果的かつ効率的な、RYRと若者たちのコミュニケーションの確保 		



	<p>- 2019年のアジア太平洋地域スカウト委員会でヤングアダルトメンバーズグループ（YAMG）が地域若者代表（RYR）に名称変更されたことを受け、適切であればYAMGコーディネーターを「RYRコーディネーター」として再ブランド化する。</p> <p>- 適切な場合、再定義されたRYRコーディネーターは、APRスカウトユースフォーラムに参加した若者の中から、またはそれぞれのNSOが指名した18歳から26歳までの青年メンバー（NSOがAPRスカウト・ユースに参加しない場合）のフォーラムを開催する。</p> <p>これは、2022-2025年の3年間の開始時に実施され、次のことを確認する必要があります。は、3年間の終わりまでに再評価される。</p>
背景	<p>「RYR三ヵ年報告書2018-2022」に記載されたことを認識する。</p> <p>"RYRは、YAMGコーディネーター実施前の三年間と同様の問題に直面しています。" 退任するRYRは、任命されたYAMGコーディネーターについて、すべての参加NSOから完全な指名を得ることができないことについて話しています。これは、地域青年代表を選出しているNSOを除く、全てのAPR・NSOに関わることである。</p> <p>世界青年参画戦略の項目 3.1 と 3.3 に記載されていることを認識する。</p> <p>3.1. スカウト運動内外の意思決定への若者の参加を増やすための潜在的な貢献を強化する目的で、あらゆるレベルの既存の構造、機構、システムすべてを見直すこと。</p> <p>3.3. コミュニケーションと促進のための手段や仕組みを開発する。 スカウト運動のあらゆるレベルにおいて、スカウト外で利用可能な機会を提供する。</p> <p>YAMGコーディネーターの結成は第6回APRスカウトユースフォーラムで推奨され、13年の歳月を経て現在第10回APRスカウトユースフォーラムに至っていることを認識すること。</p> <p>地域ユース代表は発足以来進化を遂げ、大きな成果を上げてきたが、YAMGコーディネーターは置き去りにされてきた。したがって、RYRと彼らが代表する若者たちとの唯一の繋がりであるYAMGコーディネーターを見直し、再評価することが急務である。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

提言文 8

アジア太平洋地域におけるスカウト活動の推進 Promoting Scouting in the Asia Pacific Region			
提案者	インドネシア	セカンダリー	韓国、ブルネイ、モルディブ
内容	<p>アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会、社会的影響小委員会、コミュニケーション・パートナーシップ小委員会に提言する。</p> <p>- アジア太平洋地域におけるスカウトのブランディングに焦点を当てたタスクを設立し、ア</p>		

	<p>アジア太平洋地域がスカウトのブランディング要素として推進したい側面を設定し、すべてのナショナルスカウト組織（NSO）がソーシャルメディアのプラットフォームを持ち、それらの側面に関するスカウトのコンテンツを公開することを奨励すること。</p> <p>- アジア太平洋地域のNSOの若者を対象にストーリーテリングに関するワークショップを開催し、自国でのスカウト普及のためにNSOにスカウトにおけるストーリーを提供するよう奨励する。</p> <p>- APRのスカウトに各NSOで何が起きているかを知ってもらう目的で、アジア太平洋地域のソーシャル・メディア・プラットフォームを通じて各NSOを紹介する。</p> <p>これらは、第28回アジア太平洋地域スカウト会議までに実施すること。</p>
背景	<p>以下のようなことに注目すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> - コロナウイルスの流行により、スカウトの会員数が減少したスカウト組織が存在する。 - スカウト活動が単調であるという固定観念がある。 - APRの公式アカウントでは、スカウト活動に関するソーシャルメディアへの投稿が不足している。 <p>スカウトの戦略の認識 - WOSMのビジョンは以下の通り。 "2023年までに、スカウトは世界をリードする青少年教育運動となる。1億人の若者が積極的な市民となり、前向きな活動を行うことができるようになる共通の価値観に基づき、地域社会を変える" スカウト活動を広く普及させるためのWOSMの活動を評価する。 全世界でスカウト活動を推進し、若者を惹きつけることの重要性を認識する。 スカウトのビジョンを達成するために、スカウトに参加する人たちを増やし、デジタルメディアの有効性を認識する活動を支援する。</p>
結果	可決（日本賛成2票）

提言文 9-1

<p>Implementation of Environmental Sustainability Framework in Regional Plan 2022 -2025 Recommendation リージョナルプラン2022-2025における環境維持のための枠組みの実現</p>			
提案者	モルディブ	セカンダー	フィリピン、韓国、インド
内容	<p>A. アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会に対し、アジア太平洋地域三カ年計画2022-2025において、SDGsに示される環境の持続可能性に着目し、気候災害から地域社会を強くするための保全活動の強化を支援し、環境負荷の埋め合わせを行うことを提言します。</p> <p>B. さらに、アジア太平洋地域三カ年計画2022-2025に示された様々な目標やその他の目標を通じて環境の持続可能性に取り組み、アジア太平洋地域全体の自然保護活動の発展を経</p>		

	<p>済的に支援し、Messengers of PeaceやScouts for SDGsなどを通じて自然保護活動を促進することにより、前述のことを達成できることを提言する。</p> <p>第28回アジア太平洋地域スカウト会議までに実施されるべきである。</p>
背景	<p>第42回世界スカウト会議の決議番号2021-08に含まれる以下の内容を認識する。 「世界スカウト委員会と世界スカウト事務局に対し、次期スカウト戦略策定時にSDGsに示される環境の持続可能性を重要な枠組みとして設定し、自然保護活動の強化が地域社会の気候災害からの回復力を高め、我々の環境影響を補償することを認識するよう要請する」</p> <p>国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の最新報告書の気候変動に関する調査に基づき、気候変動およびその他の環境問題に対する早急かつ持続可能な解決策の必要性の大きさを認識する。</p> <p>アジア太平洋地域及び世界中の自然災害からコミュニティを守るために、森林、緑地、珊瑚礁などの自然に基づいた解決策の利用と有効性を認識すること、及びカーボンオフセットにおける自然を基盤とした解決策の有効性を認識する。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議への提出なし

提言文 9-2

Inclusion of Environmental Sustainability Plan in Regional Events リージョナルイベントにおける持続可能な環境プランの導入			
提案者	モルディブ	セカンダー	シンガポール、フィリピン、インド
内容	<p>アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会に対し、今後の地域イベントの開催提案や主催者への経済的支援の要件として、持続可能な環境プランを含めることを提言する。</p> <p>これを、将来の地域イベントのための持続可能性を考慮した計画を作成するための関連ガイドラインと要件の検討と追加を通して取り組む。</p> <p>これは、2022-2025年の中期までに実施されるべきである。</p>		
背景	<p>第42回世界スカウト会議の決議番号2021-08に含まれる以下の内容を認識する。 「世界スカウト委員会と世界スカウト事務局に対し、世界スカウトイベントと地域スカウトイベントの主催者が環境的に持続可能なイベントの開催を強化し、世界スカウトイベント入札者のためのガイドラインの不可欠な部分として、持続可能なイベントを組織するためのWOSMガイドラインを、国の状況に配慮しながら作成するよう要請する」</p> <p>また</p> <p>第9回アジア太平洋地域ユーススカウトフォーラム（To be considered in planning for next APR event）の提言no.29に記載されている以下の内容を認識する。</p>		



	「アジア太平洋地域は、APRイベントにおけるカーボンフットプリント*の削減に取り組むべきである。毎年APRのイベントやプログラム中のフットプリントの平均値を前年度よりも下げるよう努力すること。フットプリントは、適切なアプリやプログラムを使って追跡し、年間平均を算出する。」
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

提言文 9-3

Promotion of Environmental Education Programmes 環境教育プログラムの促進			
提案者	モルディブ	セカンダー	マレーシア、シンガポール、インドネシア
内容	<p>A. アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会に対し、環境教育プログラムを取り入れ、さらに地域レベルでも普及させるための支援を提供することを提言する。</p> <p>B. この提言は、以下の方法で行うことができる。 NSOがEarth Tribeを取り入れ、地域レベルでの普及を支援する。 国内の環境プログラムの設立を支援する。 これを達成するために、環境教育プログラムに関連するWOSMサービスの利用を推進すること。</p> <p>これは、第28回アジア太平洋地域スカウト会議までに実施されるべきである。</p>		
背景	<p>第42回世界スカウト会議の決議番号2021-08に含まれる以下の内容を認識する。 「会議では、加盟団体に対し、Earth Tribeやその他の世界的・国内的戦略を用いて、環境教育が国内のプログラムにより効果的に組み込まれるようにすることを要請する。」</p> <p>Earth Tribeや他のbetterworldの取り組みを通して、環境教育を推進するWOSMの活動を認識すること。 環境問題に対する意識を高めるために環境教育の重要性を認識する。 環境問題を解決するための行動を起こす、また行動を起こすきっかけを与えることの必要性を認識する。</p>		
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出		

提言文 10

Support For Young Adult Decision Making Bodies in NSOs NSOにおける青年の意思決定への参画の支援			
提案者	マレーシア	セカンダー	韓国、モルディブ、日本



内容	<p>A. アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域青年参画小委員会が地域青年代表（RYR）と共に、以下のことを行うことを推奨する。</p> <ul style="list-style-type: none">a. NSOが行っている青年参画に関するデータを集め、地域における青年参画の現状について、知識と理解を深める。b. そのような情報を収集し、行動計画やガイドラインを作成することで、以下のことを行う。<ul style="list-style-type: none">i. APRのNSOにある全国ローバー会議（NRC）または全国青年協議会（NYC）（または同等の若者の意思決定機関）との連携を強化し、支援を提供する。ii. 若年層が意思決定プロセスに参加するための確立された仕組みを持たないNSOに働きかけ、青年参画を促す風潮を作るために、青年参画ができるような制度の確立を推進する。c. 青年参画として最善の形を模索し、他の青年団体とのコラボレーションも視野に入れる。 <p>B. さらに、青年参画小委員会と地域青年代表（RYR）は、地域全体の青年参画とそれに関連した取り組みの追跡を容易にし、より良い影響を視覚化するために、データベースを作成することが推奨される。</p> <p>これは、第28回アジア太平洋地域スカウト会議までに実施されるべきである。</p>
背景	<p>第42回世界スカウト会議資料10「青年参画」の主要目標2を受け、次のように記載する。</p> <p>「スカウティングにおける成人を対象とした適切な訓練と能力開発の機会を通じて、成人と青年が共に活動するための重要な要素として、スカウティングにおける若者の参画の原則を強化し、世代間対話と協力的な環境を促進すること。」</p> <p>そして、第42回世界スカウト会議資料10「青年参画」の主要目標2.4、2.5、2.6を受け、次のように規定する。-</p> <p>「2.4 すべてのレベルにおいて、共同作業と役割間の移行の円滑化を目的とした支援の一環としてのメンタリングプログラムとリーダーシップトレーニングのためのメカニズムを展開すること。</p> <p>2.5 青年の参加と世代間の対話を可能にするために、提携者と関わる機会と仕組みを確実にすること。</p> <p>2.6 意識改革を促し、青年主導の運動としてのスカウティングを向上させるため、あらゆるレベルで青年の参加を推進する風潮を確立すること」</p> <p>地域全体の青年参画に関するデータを収集し、データベースを構築することで、APRユース・エンゲージメント小委員会と地域ユース代表は、地域とNSOが青年参画の実践に関してどのような立ち位置にいるかを明確に把握することができる。</p>

	<p>これをもとに、地域からNSOに適切な支援を提供することができる。</p> <p>さらに、「アジア太平洋地域スカウト・ユース・フォーラム・ガイドライン」第II部第5節第4項を受け、以下のように記載する。</p> <p>「RYRは、その任期中（最長3年）、地域スカウトユースフォーラムからの参加者に報告し、対話を続け、地域の若者と問題を議論し続ける責任を負うものとする」。</p> <p>この提言文は、フォーラムから選出されたRYRとフォーラム参加者（大多数はNRC、NYCまたは同等の青年の意思決定機関からの参加）の間の対話が、RYRから若年層の参加に関するタイムリーで適切な支援を提供することによって、有意義に継続することを目指すものである。</p> <p>YAMGコーディネーターは、RYRとNSO、特にその青年たちとの間の活発なコミュニケーションを確保するために設置されたこと、また現職のRYRがYAMGコーディネーターを十分に活用する上で直面した課題はすべてのNSOがYAMGコーディネーターを正式に指名しているわけではなかったことを認識する。</p> <p>データベースを作成し、随時更新することで、RYRはYAMGコーディネーターの枠組みを完全に実施するための各NSOの主要な連絡担当者を決め、必要かつ適切な場合には、その有効性を見直し、再評価することができる。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議への提出はなし

提言文 11.1

<p>メンタルヘルスケアの促進 Promotion on Mental Health Awareness 各国ユースプログラムポリシーにおけるメンタルヘルスケアの実践 Implementation of Mental Health Awareness in National Youth Programme Policy</p>			
提案者	シンガポール	セカンダリー	マレーシア、フィリピン、香港
内容	<p>A. アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会、教育手法小委員会に対し、各NSOがメンタルヘルスケアを各国ユースプログラムポリシーにおいて実行することを支援することを提言する。</p> <p>これはメンタルヘルスの重要性を若者に教育し、彼らが心理的応急処置の証明を備える目的において、各NSOの各国ユースプログラムポリシーにおける構造化されたメンタルヘルスケアプログラムの創設に寄与する。</p> <p>B. 加えて、アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは各NSOが地域内でよりまとまったメンタルヘルスケアプログラムの着手を可能にするため、専門的なメンタルヘルスケア機関との連携を促進することを提言する。</p>		

	これは、第28回アジア太平洋地域スカウト会議までに実施されるべきである。
背景	<p>現在、世界スカウト青年計画方針や世界スカウト成人方針の文献には、メンタルヘルスに関連の教育や啓発についての記載はない。</p> <p>スカウティングは、非フォーマル教育を通じて青少年の精神的成長を促進するものであり、従って、メンタルヘルスに対する意識は、青年や成人が、パンデミックにより加速した青年のメンタルヘルス問題に対処するための関連知識を得るために極めて重要である。</p> <p>より新しい文献を知ること、本フォーラムは世界3カ年計画2021-2024の教育手法戦略優先課題に反映されているように、メンタルヘルスの啓発の重要性を認識しており、それは次のように述べている：</p> <p>「NSOが、セーフフロムハームの優先事項と結びついた、スカウト、成人、地域社会の回復力、幸福、メンタルヘルスを育むためのガイダンスを促進・提供する。」</p> <p>2022年3月に、シンガポールスカウト連盟は、シンガポール精神衛生研究所の協力のもと、若者と成人指導者のための心理的応急処置トレーニングを含むメンタルウェルネスプログラムに着手し、いずれ国家青年プログラム政策と成人学習・開発プログラムに組み込むことを目指している。</p> <p>加えて、世界保健機関（WHO）はWOSMと協力し、COVID-19のパンデミックによる影響を軽減するために、メンタルヘルス支援を主な焦点の1つとしている。これは将来、スカウティング、そのユースプログラム、関連するスカウティングにおける成人政策に拡大することができる。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

提言文 11.2

<p>メンタルヘルスケアの促進</p> <p>Promotion on Mental Health Awareness</p> <p>各国成人スカウティングポリシーにおけるメンタルヘルスケアの実践</p> <p>Implementation of Mental Health Awareness in National Adults in Scouting Policy</p>			
提案者	シンガポール	セカンダリー	マレーシア、フィリピン、香港
内容	<p>A. アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会、教育手法小委員会に対し、各NSOがメンタルヘルスケアを各国成人プログラムポリシーにおいて実行することを支援することを提言する。</p> <p>これはメンタルヘルスの重要性を成人に教育し、彼らが心理的応急処置の証明を備える目的において、各NSOの各国成人プログラムポリシーにおける構造化されたメンタルヘルスケアプログラムの創設に寄与する。</p>		

	<p>B. 加えて、アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは各NSOが地域内でよりまとまったメンタルヘルスケアプログラムの着手を可能にするため、専門的なメンタルヘルスケア機関との連携を促進することを提言する。</p> <p>これは、第28回アジア太平洋地域スカウト会議までに実施されるべきである。</p>
背景	<p>現在、世界スカウト青年計画方針や世界スカウト成人方針の文献には、メンタルヘルスに関連の教育や啓発についての記載はない。</p> <p>スカウティングは、非フォーマル教育を通じて青少年の精神的成長を促進するものであり、従って、メンタルヘルスに対する意識は、青年や成人が、パンデミックにより加速した青年のメンタルヘルス問題に対処するための関連知識を得るために極めて重要である。</p> <p>より新しい文献を知ること、本フォーラムは世界3カ年計画2021-2024の教育手法戦略優先課題に反映されているように、メンタルヘルスの啓発の重要性を認識しており、それは次のように述べている：</p> <p><i>「NSOが、セーフフロムハームの優先事項と結びついた、スカウト、成人、地域社会の回復力、幸福、メンタルヘルスを育むためのガイダンスを促進・提供する。」</i></p> <p>2022年3月に、シンガポールスカウト連盟は、シンガポール精神衛生研究所の協力のもと、若者と成人指導者のための心理的応急処置トレーニングを含むメンタルウェルネスプログラムに着手し、いずれ国家青年プログラム政策と成人学習・開発プログラムに組み込むことを目指している。</p> <p>加えて、世界保健機関（WHO）はWOSMと協力し、COVID-19のパンデミックによる影響を軽減するために、メンタルヘルス支援を主な焦点の1つとしている。これは将来、スカウティング、そのユースプログラム、関連するスカウティングにおける成人政策に拡大することができる。</p>
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

提言文 12

メンタルヘルスワークショップの開催			
Organisation of Mental Health Workshops			
提案者	スリランカ	セカンダリー	インド、フィリピン、台湾
内容	A. アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会と教育手法小委員会に対し、アジア太平洋地域の18歳以上の若者を対象としたメンタルヘルスに関するワークショップの開催を提言する。		



	<p>B. さらに、以下のことを提言する。</p> <p>a. ワークショップでは、メンタルヘルスについてのシラバスを明確に定義し、少なくとも3年ごとに関連するメンタルヘルス支援団体によって再検討されたものを取り上げること。</p> <p>b. このワークショップの参加者は、すべてのスカウトがメンタルヘルスの意識を身近に感じられるようにするため、その経験をNSOに持ち帰って促進・共有することが奨励される。</p> <p>これは、第28回アジア太平洋地域スカウト会議までに実施されるべきである。</p>
背景	<p>メンタルヘルスとは、認知的、行動的、感情的な幸福を指す。保健指標評価研究所が2017年に作成した報告書によると、7億9200万人が精神的健康障害を抱えて生活していると推定される。そのため、指導者のメンタルヘルス意識を高め、苦しむ人に対して歩み寄る技術を身につけることは、症状を理解し、苦しんでいる人々を専門的な治療に導き、一番重要なことは、非常に多くの人々・スカウトが見えない所で苦しんでいるメンタルヘルス上望ましくないことの打破へと繋がる。</p> <p>香港スカウト連盟は、スカウトのメンタルヘルス意識を高めるために、メンタルヘルスのコースの提供、及びメンタルヘルス大使バッジの導入を行っている。これにより、訓練を受けた人材は、援助を必要としている人を特定し、専門的な支援や指導へと導くことができた。</p> <p>アジア太平洋スカウト地域は、世界スカウト運動とともに、30の各国スカウト機構から少なくとも1名の代表者（18～27歳）に研修を提供することが期待されている。各国スカウト機構は、訓練を受けた人材を通じて、スカウトの指導者を養成するための規定を設けるべきである。</p>
結果	可決（日本賛成2票）

提言文 13

<p>地域リスニングイヤー支援ネットワークの実施 Implementation of Regional Listening Ear Support Network</p>			
提案者	マレーシア	セカンダー	シンガポール、フィリピン、オーストラリア
内容	<p>A. アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムは、アジア太平洋地域スカウト委員会と教育手法小委員会が、メンタルヘルス支援を強化し、メンタルヘルス意識を促進し、WOSMのセーフフロムハームの取り組みを強化するために、NSO間でリスニングイヤー（以下、LE）支援ネットワークを形成することを提言する。</p>		



	<p>B. さらに、NSO間のLE支援ネットワークは、スカウトのための安全な空間の実行を開始、支援、監督し、LEが専用の通信手段を通じて話を聞き、アドバイスを提供するプラットフォームを提供することを含むことが提言される。</p> <p>このネットワークは、心理的な応急処置の最初の窓口となり、さらに必要と判断されれば、メンタルヘルスの専門家との相談によって支援される。</p> <p>これは、第28回アジア太平洋地域スカウト会議までに実施されるべきである。</p>
背景	<p>LEシステムは、2011年にスウェーデンで開催された第22回世界スカウトジャンボリーで、児童保護と、誰かに相談したい成人のためのサポートシステムとして初めて導入された。医療従事者ではない経験豊富な大人のボランティアチームが、キャンプ中に複雑な問題に対処し、心理的支援を提供するための訓練を受けた。</p> <p>その後、このLEシステムは、2015年の第23回世界スカウトジャンボリー日本大会で、文化や背景、宗教に関係なく、誰でも利用できる支援サービスとして提供された。しかし、国際サービスチーム (IST) が包括的ガイドラインと最善の措置を用意した初の完全な専門のLEチームを設置したのは、2019年の第24回世界スカウトジャンボリーアメリカ大会の時であった。</p> <p>スカウティングは非フォーマル教育を通じて若者の精神的成長を促進する。そのため、パンデミックによって加速したメンタルヘルスの問題に対処するための関連知識を習得するためには、若者のためのメンタルヘルスの認識が極めて重要である。したがって、以前は心理的支援としてキャンプで使用されただけのLE支援ネットワークは、スカウティング運動の日々の最善の措置や取り組みに拡大することができる。</p> <p>より最近の文献を認識すると、本フォーラムではメンタルヘルスの重要性を認識している。それは以下の、事実上開催された第14回世界スカウトユースフォーラムの資料7の第2.5条と、世界3カ年計画2021-2024世界スカウト委員会の教育方法目標にそれぞれ反映されている通りである。</p> <p>「NSOが、スカウト、成人の回復力、幸福、メンタルヘルスを育むためのガイダンスを促進・提供する。」</p> <p>「NSOが、セーフフロムハームの優先事項と結びついた、スカウト、成人、地域社会の回復力、幸福、メンタルヘルスを育むためのガイダンスを促進・提供する。」</p> <p>S.C.O.U.T. (WOSMのセーフフロムハームモジュールトレーニングプログラムから成る LE モデルのアプローチ：セーフフロムハームモジュール "From Talking to Walking" 及び過去の世界スカウトジャンボリーリスニングイヤーの最善の措置) に続く、主要な目的と責任は以下の通りである：</p> <p>支援- スカウトによって表明された感情的な問題に関して、注意、共感、支援の最初の源となること。</p> <p>評価- 問題の性質とその潜在的な深刻さについて、予備の評価を提供すること。</p>

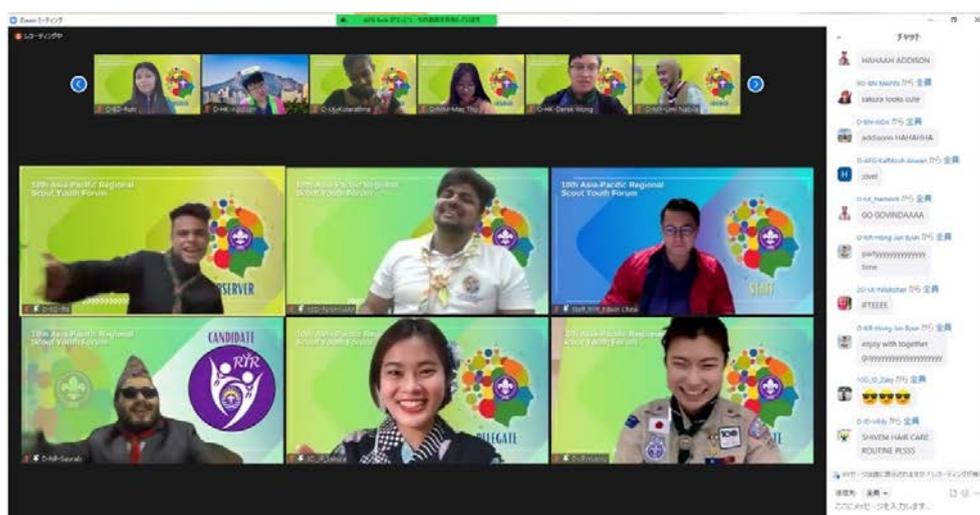
	紹介- 適切な場合、スカウトの緊急のニーズをより満たすためにメンタルヘルスなどの利用可能な資源、または専門家の援助を紹介すること。
結果	可決（日本賛成2票）スカウト会議へ提出

3.6 インターナショナルナイト

APRスカウトユースフォーラム2日目（2/10）のインターナショナルナイトでは、スカウトたちがそれぞれの国の民族衣装を着て、他国の文化芸術紹介のVTRを鑑賞し合った。VTRは事前に提出されたものが紹介され、今回は計16カ国がそれぞれ特色ある内容のビデオを公開した。例えばタイは自国の文化的な建物・景観を中心に映した内容であったが、モルディヴのようにスカウトたちが楽器演奏付きで民族舞踊のような踊りを披露するビデオもあった。Zoomを介しての動画鑑賞のため、マイクのミュートを解除して声を出して盛り上がることはできないが、その代わりチャット欄で感想を英語で書く人が大勢いた。

ビデオを全て見終わった後は、約15分のダンスタイムで盛り上がった。スカウトだけでなくフォーラムスタッフも音楽に合わせて自由に踊った。特に楽しそうに踊る人は画面にピン止めで固定されるため、さらに画面内の盛り上がりが激しくなった。

日本派遣団も、浴衣・着物・法被をイベントが始まる前に着てから参加した。今回はVTRの製作状況が整っていなかったため、動画は提出しなかったが、次からは何か動画を出せたら日本文化紹介の良い契機になるのでは、とメンバーで話し合った。



◀ インターナショナル
ナイトの様子

4. 第27回APRスカウト会議

4.1 概要

APRスカウト会議とは、アジア・環太平洋地域のスカウティングをより良いものとするため、三年に一度、各国のスカウト連盟（通称NSO：National Scout Organization）の指導者・青年代表が一堂に会し、今後のAPR地域の方針を決定する場である。

本会議では、会議開催以前に各国から提出された提言文の最終採択、アジア環太平洋地域の新たなスカウト委員の選出を行う。各国スカウト連盟の理事・国際コミッショナーをはじめ、WOSM関係者やAPRスカウトユースフォーラム参加者も会議に同席する。各NSOは、一国一票の投票権を有しており、提言文採択時には電子投票（E-Voting）にて賛成（In favour）・反対（Against）・棄権（Abstain）のいずれかに投票できる。

今回はNSO計30カ国、延べ500名を超えるAPR加盟員が集結した。新型コロナウイルスによる感染拡大を受け、会議は中継国フィリピンの首都マニラにいる会議運営チームを除き、Zoomを利用したオンライン上での開催となった。また、本会議の全容はYouTube同時刻配信で生中継・録音録画されており、以下のURLからの視聴も可能である。

YouTube URL：[27th APR Scout conference](#)



▲各国連盟のプレゼンテーション内で紹介された
日本連盟の「ワクワク自然体験あそび」

4.2 日本派遣団

本APRスカウト会議には代表6名、オブザーバー11名、APRの職を持って参加するもの3名の計20名が参加した。名簿は以下の通りである。（敬称略）

代表（6名）	水野 正人 日本連盟理事長(首席代表) 福嶋 正己 日本連盟コミッショナー 出田 行徳 常務理事(次期APRガバナンス小委員会候補者) 中野 まり 国際副コミッショナー 小林 千乃 青年代表(第10回APRスカウトフォーラム日本代表団代表) 大久保秀人 事務局長(次期APRスカウト教育法小委員会候補者)
オブザーバー (最大14名)	佐野 友保 専務理事 膳師 功 常務理事 笹淵 真子 理事・国際委員長 片寄 明 千葉県連盟コミッショナー(次期APR青年参画小委員会候補者) 小池さくら (第10回APRスカウトフォーラム日本代表団代表) 北村 梨沙 (第10回APRスカウトフォーラム日本代表団オブザーバー) 大竹 晴登 (第10回APRスカウトフォーラム日本代表団オブザーバー) 吉村 敏 事務局次長 佐藤 栄保 事務局長付 吉田 克己 事務局コミッショナー・国際担当 大高 駿 事務局国際業務他担当
APRの 職を持って 参加された方	嶋田 寛 APRスカウト委員会第一副委員長 松平 頼昌 APRコミュニケーション・パートナーシップ小委員会委員長 (次期APRソーシャルインパクト小委員会候補者) 村山 正 APR財団運営委員(次期継続候補者)

4.3 スケジュール

今回のAPRスカウト会議は以下のスケジュールで行われた。

日本時間 TIME	2月15日(火) 15 February Tuesday	2月16日(水) 16 February Wednesday	2月17日 17 Feb. Thursday	2月18日(金) 18 February Friday	2月19日(土) 19 February Saturday	2月20日 20 Feb. Sunday	2月21日(月) 21 February Monday
13:00H to 14:30H	<ul style="list-style-type: none"> 各国連盟首席代表とAPRスカウト委員の会議 APRSC meeting with Heads of Delegates 	<ul style="list-style-type: none"> 能力開発 Capacity Building (Inputs) WOSMデータ・ポータル セーフ・プログラム・ホーム WOSMサービス APRスカウトバザール 	会議	<ul style="list-style-type: none"> 各国スカウト連盟のプレゼンテーション (複数国連盟の成功事例) 	<ul style="list-style-type: none"> 新APRスカウト委員会の第1回公式会合 (新APR小委員会委員の任命) 各国スカウト連盟のプレゼンテーション (複数国連盟の成功事例) 	会議	<ul style="list-style-type: none"> 新任期APR各小委員会会合 会議決議のプレゼンテーションと協議
14:30H-15:00H	休憩 Break			休憩 Break			休憩 Break
15:00H to 16:30H	<ul style="list-style-type: none"> 開会式 Opening Ceremony <ul style="list-style-type: none"> Intro of NSO's and Guests Virtual Photo session 全体会 Preliminary Session <ul style="list-style-type: none"> APR委員歓迎の挨拶 会議機関連手続 	<ul style="list-style-type: none"> 世界スカウト機構事務総長挨拶 世界スカウト委員長挨拶 APRスカウト副会長報告 10APRスカウトフォーラム報告 APR CLT報告 APRスカウト委員選挙 	B R E A K	<ul style="list-style-type: none"> 新任期APRスカウト委員会誕生 パートナー組織のプレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> Duke of Edinburgh Eric Frank HOI- AP KISCS Suncheon WAGGGS WSF 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の地域スカウト行事のプレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> 28th APR Scout Conference 今後の地域スカウト行事計画 今後の地域・世界行事プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> 32nd APR Scout Jamboree, Bangladesh, 2022 33rd APR Scout Jamboree, Korea, 2025 25th World Scout Jamboree, Korea, 2023 17th World Scout Moot, Portugal, 2025 43rd World Scout Conference, Egypt, 2024 	B R E A K	<ul style="list-style-type: none"> 新任期APRスカウト委員会委員長のチャレンジ 会議決議の採択
16:30H-16:45H	休憩 Break			休憩 Break			休憩 Break
16:45H to 17:45H	<ul style="list-style-type: none"> 会議任命 APR委員候補者紹介 基調演説 APRスカウト委員長報告 	<ul style="list-style-type: none"> アクションタイム プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> COVID-19サービス活動 成長を促すスカウト活動：人材確保と採用のベスト・プラクティス GSAT WOSMサービス 事業開発とパートナーシップ 	A K	<ul style="list-style-type: none"> 分科会 Breakout Groups <ul style="list-style-type: none"> APR Plan Growing our movement in the post pandemic world Building Financial Capability GSAT - bring your NSO to world class standards Sustainability (taskforce Work) Youth Engagement in decision making (taskforce work) Reaching out Advocacy for growth, positioning and influence Safe from Harm compliance 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の地域スカウト行事投票結果発表 新任期APR小委員会のアタラシキ 会議決議のプレゼンテーション 	A K	<ul style="list-style-type: none"> 特別表彰 Special Recognition Ceremony 会議評鑑 閉会式 Closing Ceremony
17:45-18:00H	休憩 Break			休憩 Break			休憩 Break
18:00H to 19:00H	<ul style="list-style-type: none"> APR事務局長3年報告 APR監事報告 	<ul style="list-style-type: none"> APRスカウト委員の選挙結果発表 	A K	<ul style="list-style-type: none"> 国際コミッション会合 チーフコミッションナー会合 Global Sc Com. Network APR Palaver 	<ul style="list-style-type: none"> ATAS会合 APES会合 	A K	<ul style="list-style-type: none"> 国際の夕 Cultural/International Evening
19:00H-19:30H	休憩 Break			休憩 Break			休憩 Break
19:30H to 20:30H	<ul style="list-style-type: none"> APRスカウト財団フェローシップ集会 		A K	<ul style="list-style-type: none"> 国際コミッションナー会合 チーフコミッションナー会合 Global Sc Com. Network APR Palaver 	<ul style="list-style-type: none"> ATAS会合 APES会合 	A K	<ul style="list-style-type: none"> 国際の夕 Cultural/International Evening
21:00H to 22:30H	<ul style="list-style-type: none"> APRスカウト財団フェローシップ集会 			<ul style="list-style-type: none"> 国際コミッションナー会合 チーフコミッションナー会合 Global Sc Com. Network APR Palaver 	<ul style="list-style-type: none"> ATAS会合 APES会合 		<ul style="list-style-type: none"> 国際の夕 Cultural/International Evening

4.4 決議事項

本スカウト会議では決議文の採択、次回APRスカウト会議開催地の2点が主な決議内容であった。以下にその内容を簡潔に紹介する。

4.4.1 決議案

本会議では事前に提出された決議案より、計15の決議文が採択された。新型コロナウイルスの影響で多くの行動が制限される中、スカウト、指導者のメンタルヘルスに関わる内容が多く見受けられた。決議案の詳細は以下の資料を参照されたい。

資料：[27th APR Scout Conference “Document No. 26 CONFERENCE RESOLUTIONS”](#)

4.4.2 第28回APRスカウト会議開催地

本APRスカウト会議では、次回第28回APRスカウト会議の開催地が承認された。本来、今大会は台湾にてオフラインの開催が予定されていたが、新型コロナウイルスの影響を受け、オンラインでの開催となった。そのため、次回のAPRスカウト会議、ユースフォーラムの開催地は、共に前回決議を引き継ぎ、台湾がホスト連盟として承認された。

5. 派遣終了後の活動

5.1 報告書作成

スカウト会議終了後、翌二日から報告書の作成に取り掛かった。過去の国際派遣事業より、報告書の作成に時間がかかる、期限を延ばし過ぎては士気が下がりやすいとの共通認識があったため、報告書取り掛かりの翌週より毎週末進捗確認兼評価反省、提言文内容の話し合いをおこなっていった。それゆえ、派遣団内でも毎週オンライン会議を行うのが週課となり、頻繁に連絡を取り合い、約1ヶ月で報告書作成を完了できたことは評価できる点であろう。しかし、スカウト会議終了後1カ月での報告書提出はやはり派遣員にとっても負担が大きく、提出期限を延ばすか報告書のフォーマットの見直しを行うか等の調整を次回からは行うべきだと感じた。

5.2 提言文作成

第10回APRスカウトユースフォーラム日本派遣団は、第14回世界スカウトユースフォーラム日本派遣団と共同で提言文を作成し、日本連盟に提出した。その理由としては、両フォーラムの開催時期が近く、かつ両フォーラムで得た知識や発見を総括して一つの提言文としてまとめた方がより良い提言文になると両フォーラム派遣団で話し合ったためである。両派遣団は第10回APRスカウトユースフォーラム終了後、計5回以上のミーティングを通じ、提言文を作成した。提言文内容はp.62を参照。

5.3 RCJとの連携

今回のAPR派遣団員はRCJ運営委員会の特別補佐としてAPRに参加した。

派遣前	<p>運営委員で前回のAPR参加者である尾形凜太郎さんと何度かミーティングを行い、RCJに関するインプットをしていただいた。</p> <p>国内のスカウティングについての現状を把握するために、Slack上で運営委員の知見を共有してもらった。また、RCJのLINEやRCJ県代表を通じて全国のローバースカウトを対象にアンケートを行った。</p>
-----	---

派遣中	Slackで日本がセカンダリーとなった提言文の内容の共有を行った。
派遣後	運営委員と世界フォーラムメンバーを交え、概要の報告や、提言や国内外のスカウティングに関する議論を行い、双方向のコミュニケーションを図った。他にも提言文案に関して運営委員から意見をもらい、適宜修正や追加を行った。



▲RCJ運営委員・世界スカウトフォーラム派遣員との意見交流会の様子

6. 評価・反省

6.1 目的・目標について

目的：

日本のスカウティングの現状を把握し、他国派遣団と課題の共有を行った上で、APR規模の意思決定に日本派遣団として参画する。

評価
<p>事前準備において、RCJや前回派遣員よりレクチャーを受けたり、派遣団内で自身の収集した情報を共有することによって日本のスカウティングの現状を把握できた。また、海外派遣団とのミーティングを通じて、海外スカウトと課題を共有するだけでなく、派遣団内でも海外との比較を行うことで客観的に見えてくる日本の課題や特徴を発見することができた。これらの準備を通じて、派遣団内で日本の課題を話し合うことができ、それを踏まえて日本代表団としてAPRの意思決定に参画することができた。</p>
反省
<p>前回の世界フォーラム派遣時より日本連盟との連絡を密に取ることができていたが、組織的な情報などもっと日本連盟に頼って情報提供をしてもらい、理解を深められればよかったと感じる。また、日本のローバー部門以外の部門に対する理解が比較的浅かったため、ローバーの代表ではなく、日本のスカウト代表として参加するには更なる努力が必要だったと再考する。意思決定の参画に関しては、提言案が公開される前に他国から提言文に関する情報をもっと活発的に収集できればよかったと反省する。</p>

また、その過程や各国スカウトの課題を国内のユースに対して積極的に発信を行う。これらを通して、本派遣団は国内ユース間においてスカウティングに関する活発な議論が生成され、ユースによる自発的な国内スカウティングの振興と更なる発展が促されることを目指す。

評価
<p>派遣メンバーが各国スカウトの課題等を積極的に情報収集し、派遣団のFacebookペー</p>

ジとInstagramを通じて、国内のユースに対してシェアすることができた。また、全国のローバースカウトを対象にスカウティングに関するアンケートを実施することで国内各地域の現状を見つめなおし、問題を提起することができた。この結果をRCJが取り上げることによって「ユースによる自発的な国内スカウティングの振興」のきっかけを作ることができるだろう。また、今後実施予定の報告会にて「国内スカウティングに関する活発な議論」の場を設ける予定である。

反省

国内のユースといっても、情報発信の対象がFacebookやInstagramのフォロワーのみに留まった。RCJ既存のSNSや公式LINEを利用するなど、その他メディアを駆使し、より多くの国内スカウトに情報発信を行い、議論を生み出す工夫ができれば尚よかった。

目標1. 事前に日本連盟、RCJと連携して資料の読み込みを行い、日本のスカウティングの現状を把握する。

評価

前回の海外派遣よりも、日本連盟と連携を取り、情報共有ができた。そのため、日本のスカウティングにおけるプログラムの過不足や、派遣団内だけでは知り得なかった情報を取得できた。今後の派遣では誰に何を聞けばいいのか明確化できれば、更なる情報収集が見込めるだろう。また、派遣団で作ったアンケートから、88件ものRCJ構成員の声を直接聞き出せたことは、日本のローバーリング、世代間対話等の現状を理解する上で重要な手掛かりとなった。

反省

日本連盟、RCJ運営委員会と情報共有だけでなく、意見交換の機会を設けることが出来れば尚良かった。派遣団内でも日本の現状について議論する時間を更に設けるべきであった。また、情報共有の際、質問事項を予め準備し、質問ができれば、国内状況やRCJに関して更なる理解が期待できる。アンケート結果はフォーラム開催以前に分析を行えていれば、ディスカッションや海外派遣団との交流に役立てることができた。

目標2. フォーラムにおける意思決定に日本派遣団の意向を反映し、参画する。

評価
<p>意思決定に参画するという点ではRYP選挙、提言文の承認に関して日本派遣団内で事前に議論を行い、余裕を持って投票を進めることができた。RYP選挙では、14人の候補者中13名との事前ミーティングを実施し、派遣団内で投票前に十分話し合う時間を持てた点は評価に値する。セカンダリーとなった2つの提言案中、実際に提出されたのは1案のみではあったが、日本派遣団としてセカンダリーという立場から参画できた点は良き経験となった。</p>
反省
<p>フォーラムより配布された資料では提言文承認までの流れが掴みにくく、また世界フォーラム、前回フォーラムと流れの違う点がいくつかあり、派遣団内でも状況把握が完全ではなかった。積極的に他国派遣団にメッセージを送るなどして認識合わせを行えばよかった。提言文は提出すれば良いというものではないが、今回はセカンダリーのみで提言・修正案の提出は行えなかった。次回も同様の流れであれば、派遣団は事前にミーティング時間を決めておき、提言案公表後、提言案の修正時間を十分に確保しておくことを推奨する。</p>

目標3. フォーラム後、国内のスкауティングを評価した上で日本連盟に対する提言文を提出する。

評価・反省
<p>第14回世界スカウトユースフォーラムの派遣メンバーと連盟で、日本連盟に対する提言文を仕上げている、完成次第展開予定である。世界フォーラムメンバーが作成したベースをもとに、私たち派遣団がそれぞれに感じたことや得たこと、APR独自の視点を織り交ぜることができた点は評価できる。</p>

目標4. フォーラム後、国内RSに向けた報告会を実施する。

評価・反省
<p>今後国内RSに向けた報告会を世界フォーラム派遣メンバーと計画していく所存である。RCJ運営委員会に留まらず、ブロックや県、団や隊など様々なレベルでフォーラムの派遣報告を試みたい。</p>

目標5. SNSを通じてAPR派遣団の動きや海外のスкауティングの実情を発信し、世界に広がるスカウティングを日本のスカウト・指導者に実感してもらう。

評価
<p>FacebookとInstagramを派遣団の主な広報ツールとして運用した。日本・海外のスカウト、スカウト以外の人にも理解できるような内容を心掛けたため、Facebook・Instagram計200人以上が日本派遣団のアカウントをフォローしてくれた。また、Instagramのダイレクトメッセージ機能を活用することで、海外のスカウト・指導者との直接的な交流窓口となった。他にも、Instagramのストーリー（24時間で消える投稿）で日本派遣団の様子を随時投稿した結果、フォロワー数増加へと繋がった。派遣団は海外スカウトとの交流報告を行っただけでなく、他国NSOの新しい情報や知見などを共有したため、フォロワーからも情報の質と投稿の頻度に関して肯定的なコメントを頂き、成果を実感することができた。</p>
反省
<p>広報計画の策定が遅れたため、広報アカウントの開設がフォーラム開催の約10日前になってしまい、広報担当がもう少し早めに行動を起こすべきであったと反省している。また、Instagramの特性上、写真は正方形のものしか載せられないが、長方形の写真を無加工で投稿し、一部が見切れたままになったこともあった。これはメンバー全体で投稿後のチェック体制を確立するべきであったと考えている。</p>

6.2 派遣全体について

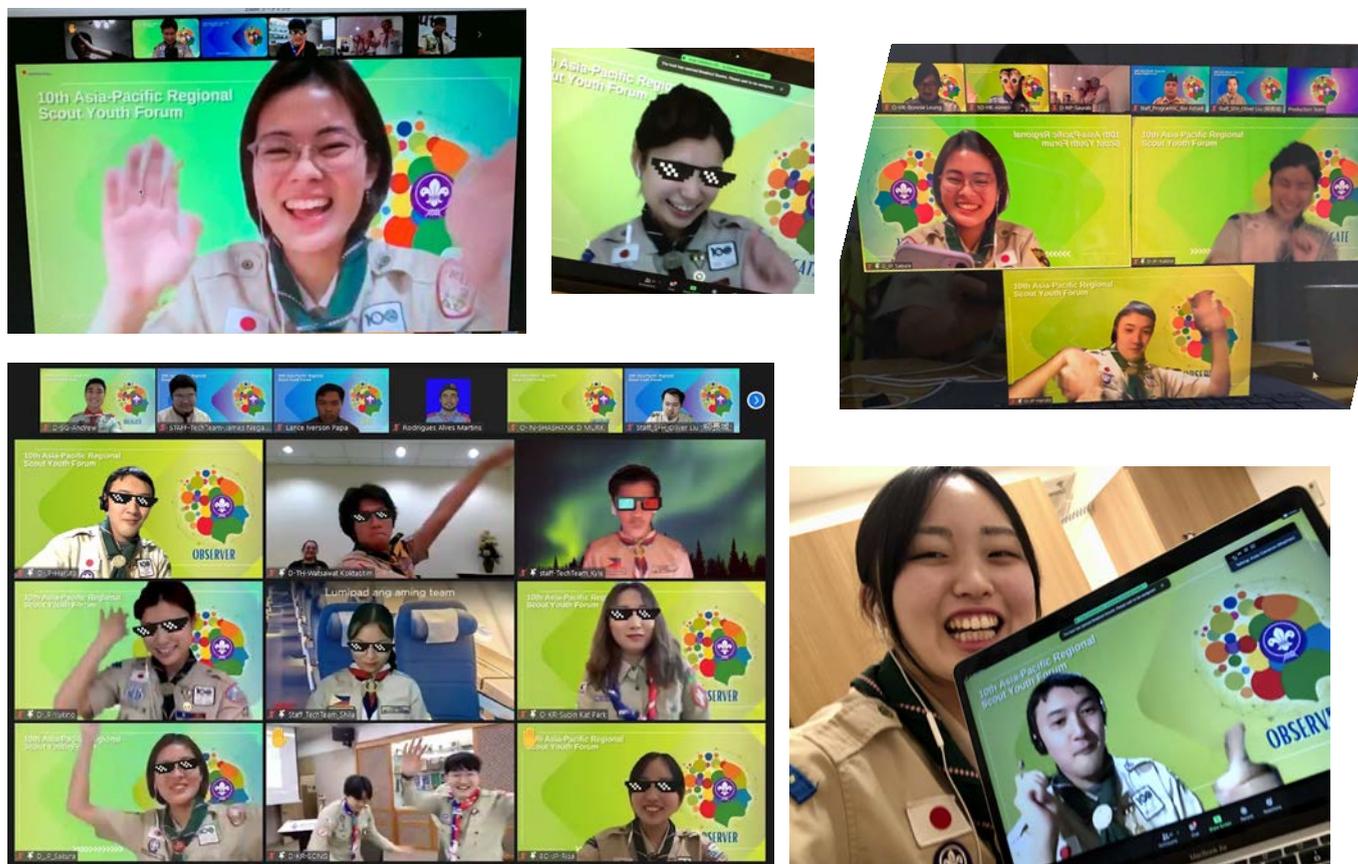
期間区分	評価・反省
派遣前	<p>派遣団発足後、派遣員同士の空いている時間を合わせる事が難しく、議論すべき内容の多さと時間の不足により少し不安が残る状態での幕開けとなった。しかし、中盤より他国とのミーティングを通じて自身の既知情報や収集した資料を互いに共有することができ、海外派遣団との交渉、日程調整、広報活動に関する十分なコミュニケーションを通じて日本派遣団としてのまとまりが出てきたように感じる。また、提言文に関するプロセスが前回APRフォーラム、去年の世界フォーラムとは異なっており、完全に把握できていなかった部分は否めないが、全体としては事前準備として行すべきこと、派遣団内の目標（広報活動など）は着実にこなすことができたので評価に値すると考える。</p>
派遣期間中	<p>目標にも定めた通り、SNSを通じて国内のスカウトに向けて積極的に情報発信をすることができた。また派遣メンバーは投稿文を作成するために積極的に情報を収集することができた。フォーラム提言文の提出に関して事前準備の不備を痛感することがあったが、事前ミーティングを通して繋がりを作った他国スカウトに相談することで対応することができた。</p> <p>これらの反省を踏まえ、その後に行われたフォーラム提言文の投票に関しては日本派遣団で十分な時間を確保し、丁寧に議論することができた。</p> <p>また、フォーラム期間中はSlackのハドル機能を利用し、日本派遣団のみでコミュニケーションをとれる場所があったことが安心感につながった。投票の際もリアルタイムで情報共有しながら取り組めたので、技術的なミスもなく終えることができた。</p>
派遣終了後	<p>派遣終了後は世界フォーラム派遣団が既に取り組んでいた提言文の作成に加わった。提言文にAPRフォーラムの内容を反映させたり、フォーラムで培った知見を盛り込んだ。また、提言文提出の前に、提言文の内容をRCJ運営委員と共有し、運営委員からの視点も取り入れた。</p> <p>派遣前は毎回のミーティングで次回ミーティングの日程を決めていたため、十分にミーティングの時間が確保できなかった。その反省を活かし、派遣後は報告書提出までのミーティングの日程をあらかじめ全て決めておいたため、計画的に報告書や提言文の作成を進めることができた。</p>

6.3 オンライン開催について

コロナ禍でのフォーラム開催となったものの、オンライン開催による恩恵は大きかった。派遣団会議において、メンバーは対面で会うよりも時間の制約に縛られず、今後の方針について十分な議論が行えた。オンライン開催であったことより、インプットセッションが事前に行われ、参加者の情報レベルの一致が可能となった。また、他国との交流でも、リラックスした環境で行うことができ、且つ時間設定を細かく打ち合わせていたため、無駄に時間が伸びることなく効率的に情報・資料の共有ができた。

ネット環境が各国状況により異なっていたこともあり、途中で回線が落ちる・声が止まるなどの問題があり、公平さを保つことが難しいように見えた。また、時差の問題で一部の地域が夜遅くの参加を強いられたり、日本派遣団自身も他国との交流日程が組みづらいという難点もあった。その他、インターネット上での会議であっても、他国との交流は自ら積極的にコミュニケーションを取りにいかないと難しい点は、現地開催よりも顕著に現れていた。

<派遣団ギャラリー>



6.4 派遣員所感

小林 千乃（代表）

スカウティングとは何か、何の為にするのか。発展レベルの異なる様々な国が属するAPRのユースフォーラムに参加して感じたこと、それはとてもシンプルなことだった。

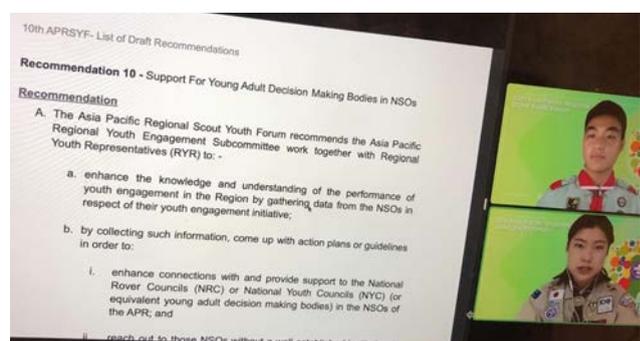
女性の衛生教育を進めるバングラデッシュや、環境保全の提唱に奮励するモルディブ、コースト制度の課題に取り組むインドのスカウト。これほど多様な問題を扱うAPRだが、どの国のスカウトにも通じる点の一つあった。それは、皆スカウティングの力を紛れもなく信じており、自身の属する社会を少しでも良くしようと活動している点であった。

「ボーイスカウトって報酬も無いのになんでそんなに頑張れるの？」派遣前に同級生から発せられた素朴な疑問、それ以来、自身とスカウティングの関わりについて深く考えさせられていた。なぜ私は今でも活動に参加しているのか。派遣が進む中、改めて気づいたことがあった。それは、やはり私もこのスカウティングという教育がスカウトのみならず、社会に与える影響を信じており、APR・世界中に同じ仲間がいることを知っていることであった。今までの派遣では一度にこれほど多くの国のスカウトと議論を行うことに乏しかったが、今回の派遣を通してこの点について確信を持つことができた。そのことに対して喜びを感じたと同時に、自身の信じる方向へ進む大きな一押しを得られた気がした。

では私にとってそのスカウティングとは何であるか。私にとってスカウティングとは常に新しい世界を見せてくれ、自分とは何者かを気づかせてくれる存在であり、今後もそれは変わらないであろう。日本のスカウティングも比較対象があって初めて客観的に見ることができ、本派遣を通して、外を知ることの大切さを改めて実感させられた。私はこれまで幸運なことに、スカウティングを通してこのような経験を多くさせていただいた。それゆえ、その経験をさらに多くのスカウトに還元できるよう、活動を続けていきたい。この度、APR会議への参加を通して指導者の方々からお話が聞けたことは今後のスカウティングと自身の発展を考える上で、とても勉強になった。

私は今後も、スカウティングの力を多くの人に感じてもらえるような活動を続けてゆきたい。そのために、自身の持ち合わせているものを如何にスカウティング、社会に貢献することができるのか、今後のローバーリングにてまだまだ自身のカヌーを漕ぎ続けてゆこう。

この度、本派遣を支援して下さった皆様、我々派遣員にこのような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。



小池 さくら（代表）

今回のAPRスカウトユースフォーラムは、第14回世界スカウトユースフォーラムに続き2回目の国際フォーラム参加となった。世界フォーラムでは「スカウト運動を支えているのは私たちスカウトの主体性だ」ということに気づき、参加後の活動でもその重要性を伝えてきた。しかし、一人ひとりの主体性は自然発生するものではないため、具体的にどのように働きかければ仲間たちが能動的に取り組んでくれるのかという疑問を持った。世界フォーラムでは、他国のスカウトたちは私が意見を出すまで待っていてくれたり、何度も丁寧に説明してくれたりしたことから、「周りが意見に耳を傾けること」が主体性を導き出すきっかけになると考えた。今回のフォーラムでは、更に強い主体性を継続して持つために、周りがどのように働きかけるとよいかを考えるために参加を決めた。

まず私自身が主体性を持って参加するため、「他国スカウトとのディスカッション中に必ず1回は質問する・意見を伝える」という個人目標を立てた。世界フォーラムに参加した際、多くのことを学んだ反面英語が分からなかったり意見が出てこなかったりして悔しい思いをしたこと、もっと日本の現状や他国の具体的な取り組みをシェアしたいと思ったことがその背景である。この個人目標は事前セッションや他国とのミーティング、フォーラム期間含め達成することができ、私にとって大きな自信となった。それだけでなく、世界フォーラムに参加した時は一方的に助けてもらうような場面が多かったのに対し、今回は他国スカウトと対話することで世界フォーラムよりも強いコネクションを作ることができた。更に、アジアのスカウトたちの積極的な姿勢やスカウト活動への想いに触れ、日本のスカウティングも負けていけない、もっと国内でのスカウト活動に力を入れたいという気持ちが強くなった。この経験を通して、一人ひとりが主体性をもって取り組むためには同じ目的を共有した上で対話することが必要だと感じた。仲間と同じゴールをもつことで持続的なモチベーションを持つことができるのではないかなと思う。

今回のAPRスカウトユースフォーラムを経験して、今後の国内の活動では互いの声に耳を傾けるだけでなく、更に目的を共有することで主体的に関わり助け合える仲間を増やしていきたいと考えている。



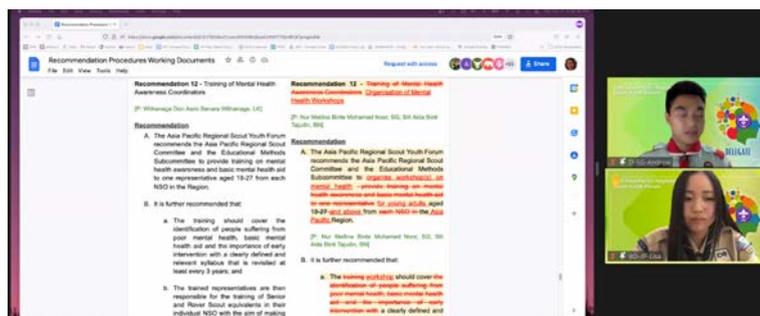
北村 梨沙（オブザーバー）

昨年8月に開催された世界スカウトユースフォーラムに続き、ローバースカウトとして2度目となる国際フォーラムへの参加となった。APRフォーラムはオンラインであるのにオンラインとは思えないほど高揚感と達成感に満ちたもので、忘れがたいものとなった。

今回のフォーラムで、“creating a better world”について自分なりに見つめ直すことができた。フォーラム以前は、意味を文字通りに解釈していただけだった。解釈については正解はないが、私は“creating a better world”には直接的、間接的の2種類のアプローチがあると思う。1つ目の直接的アプローチは活動やプロジェクトを通して、社会に貢献し、より良い世界を作ろうとすることである。今回のフォーラムでは海外スカウトの地域社会やコミュニティへの取り組みの多さが非常に印象的だった。それに対し、日本のスカウティングは内向きのものが多いと感じる。フォーラム中の議論や他国派遣団とのミーティング内で日本のローバースカウトによる対外的なムーブメントの事例を多く紹介できず歯痒い思いをした。RCJはじめ日本の組織は世界的に見ても基盤がしっかりしているため、これを活用して外向きに良いインパクトを与えていくべきだと思う。2つ目の間接的アプローチは、個人がスカウティングを通して成長し、より良き社会人となり、長期的により良き世界を目指すというものである。APRフォーラムでは世界フォーラムに引き続き青年参画が大きなトピックとなっていた。青年参画を推し進める理由としては、スカウティングは青少年の運動だから青少年が舵を切るべき、という見方が基本だと思う。これに加え、積極的な参画を通して、スカウトは人間性を養い、“creating a better world”に長期的に貢献できるかもしれない。私自身APRフォーラムに全力で参画し、全国のスカウトに還元するために頭を悩ませたことで回り回って将来につながる思考力や主体性が向上したと思う。

個人的な話にはなるが、フォーラム後非常に嬉しいことがあった。ビーバー隊の体験に来ていた男の子がAPRフォーラムはじめ国際的な活動の話をしたことをきっかけに入隊してくれた。ローバーまで続けて世界を見たい、そのために英語の勉強を頑張りたい、と言ってくれた姿には非常に感動した。

最後に、フォーラムへの参加をサポートして下さった皆さま、これまで関わって下さった皆さま、私に様々な視点を与えてくれた国内外のスカウトに感謝したい。そして、この経験をどのように還元できるのか、周りに良い影響を与えられるのか私なりに模索していきたい。



大竹 晴登（オブザーバー）

とにかく学ぶことの多いイベントでした。世界のスカウト活動に興味があり、海外経験をして自分の団・地区に日本以外の視点を広めていきたいと思ったため、今回のフォーラムに参加しました。ですが参加してから、自分に全く力がないことに気付きました。私は今まで海外派遣のプログラムに参加したことがありません。そのため、今回のような30回以上の会議、細かい資料分析、全体の方針決定は初めてでした。初めて尽くしの行事である上、他のメンバーのようにボーイスカウトに関する知識もあまり多くないため、フォーラムの準備期間は勉強と情報共有の日々が続きました。

初めてのフォーラムは自分にとって驚きの連続でした。参加者の自国NSOの特徴と改善すべき点を知り尽くした上での解説・APRを良くしたい信念、日本では見たことのない若者のボーイスカウトに対する情熱に私は感嘆しました。一番印象に残った場面があります。インドのスカウトが自分の国で児童労働が行われている現状を話してくれました。彼はボーイスカウト活動・APRでの連携を通じてその問題を他国に認知させ、アジア・世界全体でインドの恵まれない子供たちを支援したいそうです。ここまでボーイスカウトを社会貢献に役立てようとする気概に圧倒されたと同時に、私は自国のスカウティングでインド程に大きな目標を立てたことがなく、情けなさを感じました。世界というフィールドでは、如何に自分達の持つものについて多くを語れるかが重要だと気付かされました。

全体で話されていたフォーラムの開催意義である青年参画は、APR・世界規模で一番重要なトピックであると実感しています。グループディスカッションを通じて、海外スカウトは青年参画の要である”Intergenerational Dialogue（世代間対話）”において、指導者—スカウト間の相互理解のために会議やワークショップを立ち上げていると聞き、日本との差を突き付けられました。フォーラム中、私は「自分の団・地区はこれが達成できているか」と自分に問い続けていました。なぜ日本はこれができていないのか、どうすれば日本でこの問題を解決できるのか。比較的スカウトの少ない自分の団にこれを持ち帰り、即座に解決できるかは分かりません。ですが、他の参加スカウトのように色んな人と話し合い、出来る限り全員が納得できる答えを導き出したいと考えました。

今回フォーラムで学んだことは、必ず自分の団・地区でも一緒に考えていきたいです。アジア・世界規模で学んだことは日本でも役に立ちます。そして、この報告書を読んで次にフォーラムに参加する人が増えて欲しいと思います。



7. 日本派遣団としての提言

日本のスカウティングの改善のために、日本連盟やRCJ、国内のスカウトたちに向けて提言を出すことは一つの効果的な手段となる。そのため、私たち派遣団も提言の作成に取り組んだ。

今回の提言作成は第14回世界スカウトユースフォーラムの派遣メンバーと合同で行われた。コロナウイルスの影響で開催時期がずれたことにより、第14回世界スカウトユースフォーラムと第10回APRスカウトユースフォーラムが同年度に行われ提言作成の時期が重なったこと、基本的には世界スカウト会議で議決された方針に乗っ取ってAPRの取組が作られるため提言の方向性は同じになること、提言は一つにまとまっている方が効果的だと考えたことが合同作成の理由である。私たちAPR派遣団は、世界フォーラム派遣団の作った提言案をベースとし、更に大切にしたい部分や経験から感じたこと等を反映させ提言作成に関わった。

共同提出の提言文は以下の通りである：

資料：[14WSYF & 10APRSYF 日本派遣団による提言 バージョン0.1](#)

資料

国内スカウティングに関するアンケート調査結果

基本情報

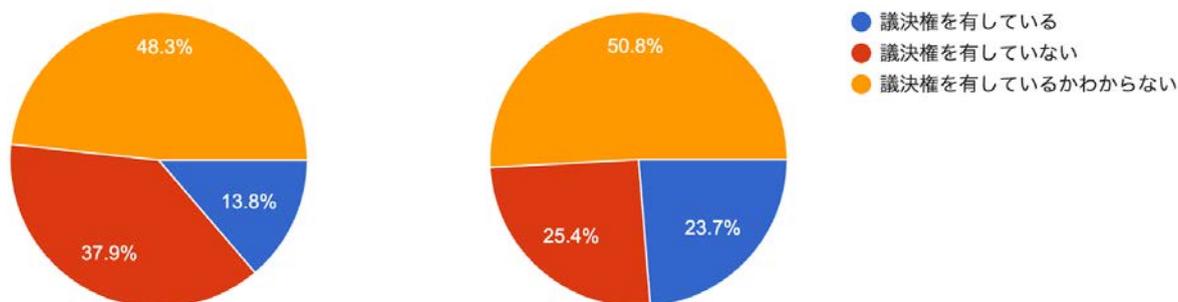
ユースフォーラム開催期間中の2月10日より3日間、RCJ県代表、RCJ構成員に対して国内スカウティングに関するアンケート調査を実施した。RCJと連携をとり、RCJ公式LINEアカウントより、アンケートの周知を行なったため、結果29人の県代表、59人の県代表以外のRCJ構成員、計88名から回答を得ることができた。回答者の所属分布も偏りが少なく、比較的満遍なく回答を収集できたと言える。次回からは開催期間前にアンケート調査を行い、結果分析ができれば、今回以上に資料を有効活用できるであろう。

1. 青年参画

問1. あなたの県連盟においてローバースカウトが県連理事会において議決権を有しているかお答えください。

県代表（29件の回答）

県代表以外（59件の回答）



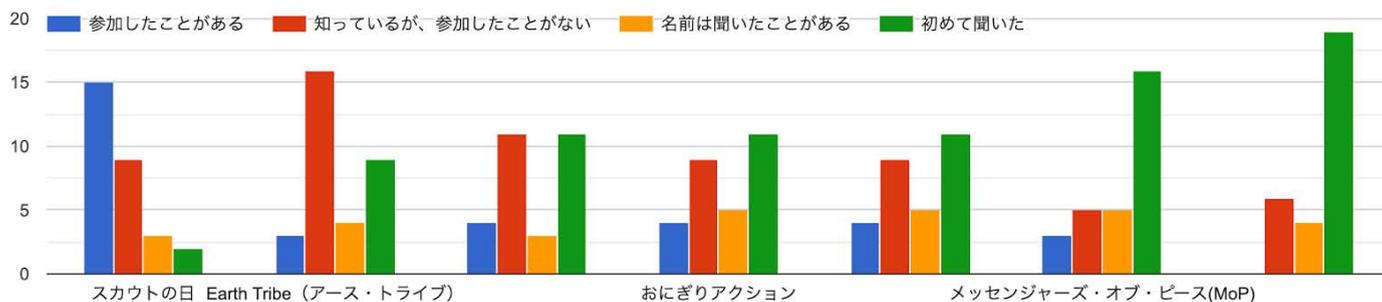
全体的に、所属連盟において青年が議決権を有しているか不明な回答者が半数以上を占めており、県代表であっても約半数が分からないとの回答であった。今回のAPRスカウト会議では、各NSOの意思決定機関において40%または最低2名のメンバーが30歳未満となるようAPRがNSOを支援することが決議され、海外においては青年参画の方法の一つとして青年の議決権の有無を重視する姿勢がある。そのため、青年の議決権保有を始め、青年の意思決定機関への参画方法は日本でも模索してゆくべきものであると考えます。

2. 日本連盟Scout for SDGsの認知度

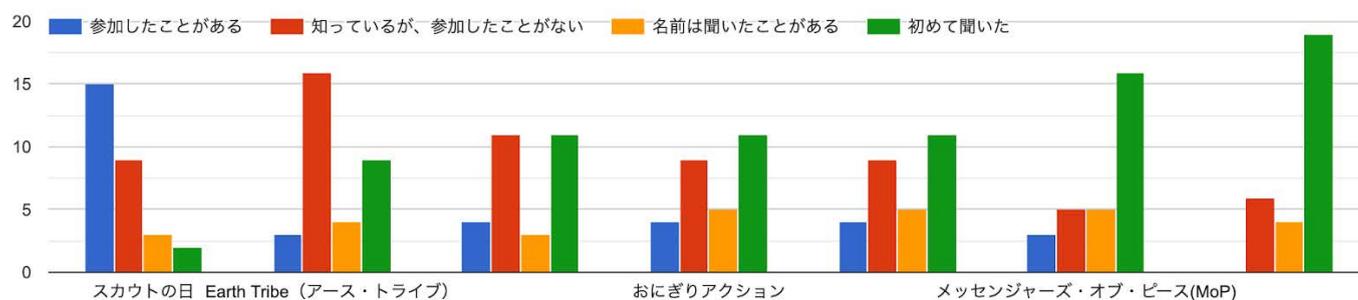
問2. 以下のScout for SDGsの取り組みについて知っているものを選んでください。

左より：スカウトの日、アーストライブ、JOTA-JOTI、おにぎりアクション、難民支援衣料回収プロジェクト、MoP、国立公園カーボン・オフセットキャンペーン

県代表（29件の回答）



県代表以外（59件の回答）



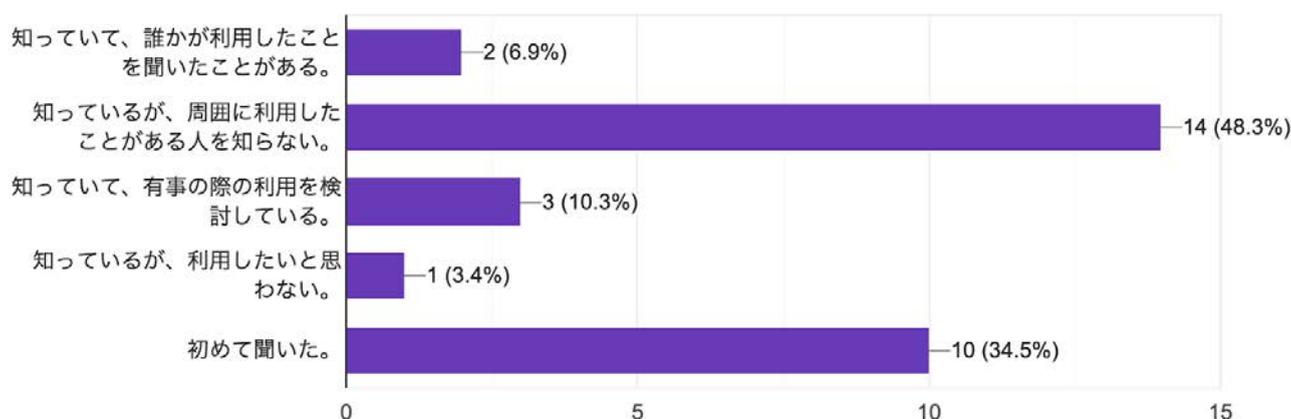
「参加したことがある」という回答が最も多かった項目は「スカウトの日」であり、団レベルで取り組んでいるケースが多いことが影響していると考えられる。それに対し、「おにぎりアクション」や「メッセンジャーズ・オブ・ピース」の参加率や認知度は比較的低かった。「Earth Tribe」の認知度はスカウトの日よりも高い一方で、参加したことがないというスカウトが多い。今後、隊・団レベルよりEarth Tribeの実質的な活動展開をさらに支援する必要があると考えられる。

「メッセンジャーズ・オブ・ピース」については認知度を上げていく必要がある。RCJなどの組織が中心となり、これに関する活動例をシェアすることでこれを達成することができると考えられる。またプロジェクトとScout for SDGsを連携づけることで、これらの認知度や活動の機会を増やすことができると推測する。

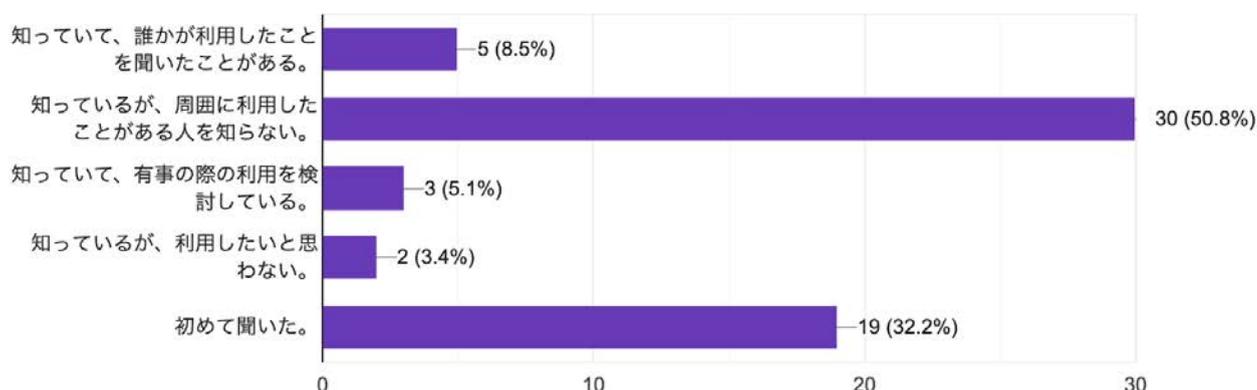
3. 日本連盟セーフフロムハーム対策の認知度

問3. 日本連盟の「セーフフロムハーム通報相談窓口」を知っていますか。

県代表（29件の回答）



県代表以外（59件の回答）

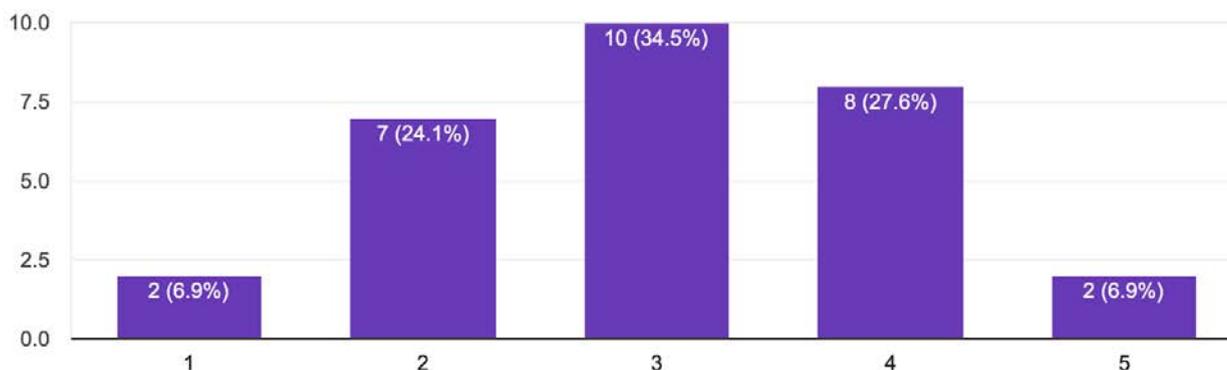


セーフフロムハーム通報相談窓口は多くのスカウトが知っている反面、初めて聞いたスカウトも3分の1程度いることが判明した。また実際セーフフロムハーム通報相談窓口を使っている人が可視化されることはないが、実際に利用している人もいるため、需要はあることが分かった。より多くのスカウトや指導者の心理的安全性を確保するため、RCJや日本連盟は引き続きセーフフロムハーム通報相談窓口の周知に力を入れるべきであると感じる。

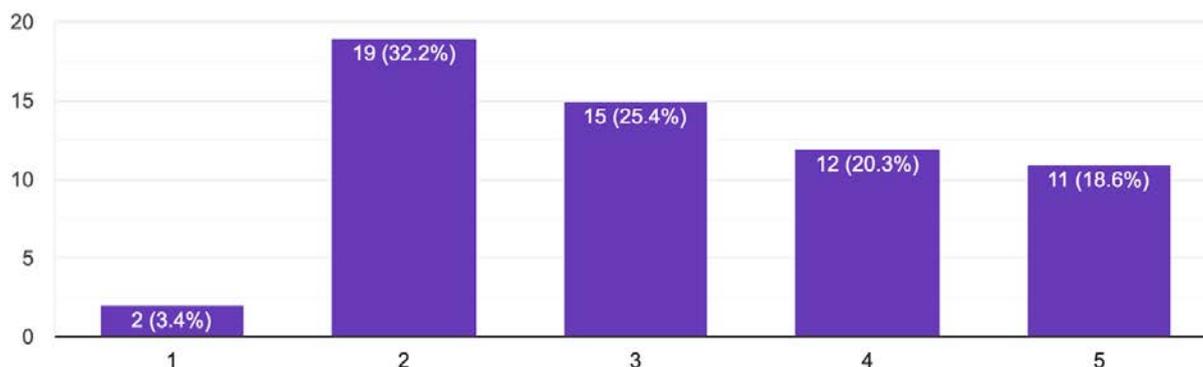
4. 世代間対話に関する認識

問4. 自身の所属する県連盟における世代間のコミュニケーションに対する評価を教えてください。（1:十分にできている～5:できていない）

県代表（29件の回答）



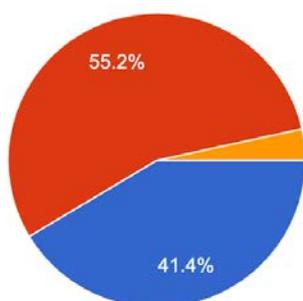
県代表以外（59件の回答）



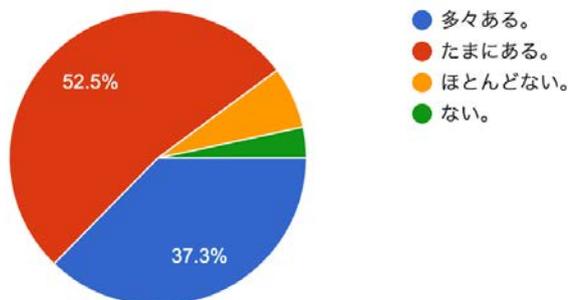
RCJ県代表以外の多くはRCJ県代表よりも世代間対話に対する評価が高いことが分かった。「県連盟における」と広範囲的な聞き方を行ってしまったが、「県連盟とのコミュニケーション」や「団内における指導者とのコミュニケーション」など、対象を絞った質問をした方が分析が行いやすかったと推測する。

問5 成人指導者は青年の意見への理解を示してくれていると思いますか。

県代表（29件の回答）



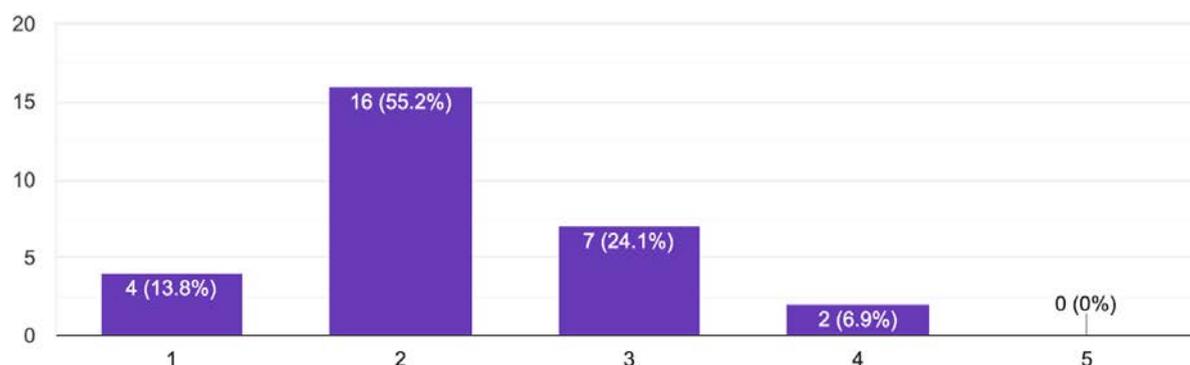
県代表以外（59件の回答）



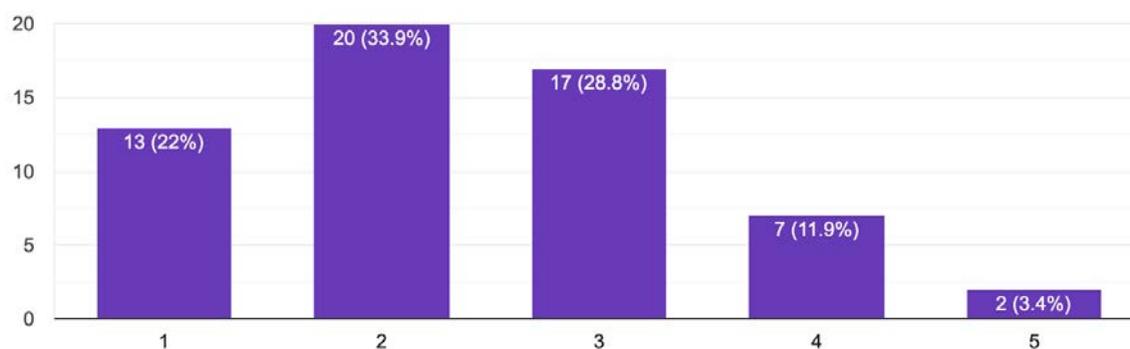
- 多々ある。
- たまにある。
- ほとんどない。
- ない。

問6. ローバースカウトは成人指導者の意見に対して積極的に理解しようと努力していると思いますか。（1:十分に努力している～5:努力していない）

県代表（29件の回答）



県代表以外（59件の回答）



問5、問6の結果より、RCJ構成員は成人指導者と青年との間で互いの意見に対して理解が進んでいると考える人が多いことが分かった。特にRCJ県代表からは、世代間双方向のコミュニケーションが取れているとの回答が多く得られた。今後はさらにこのような世代間の理解に関してプラスの評価が増えることを期待している。

その他関連資料

第10回APRスカウトユースフォーラム、及び第27回APRスカウト会議の関連資料はWOSMの公式ホームページにて掲載されている。以下のURLより参照されたい。

URL：[第10回APRスカウトユースフォーラム、及び第27回APRスカウト会議関連資料](#)